

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔令和6年4、5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

令和7年1月
埼玉県教育委員会

はじめに

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査として、本年度10回目の節目を迎えました。

本年度より、埼玉県学力・学習状況調査を県内62の市町村でC B Tでの実施いたしました。C B T化に伴い、これまで得られなかった解答時間と見直し時間といった結果(解答ログ)が加わったことで、よりきめ細かな指導が可能になりました。

本報告書では、調査の詳細や、校内での帳票の活用方法の例、これまでの実施状況から見えてきたこと、調査結果の分析による指導のポイントなどを、分かりやすくまとめています。

今回の分析結果の一つに、苦手などの感情をコントロールして、学習へ向き合おうとする児童生徒ほど、学力も高い傾向が見られました。各学校においては、苦手なことを克服しようという気持ちを育む指導を行っていただく際に、解答ログから粘り強く取り組んでいる様子を把握することができるようになりました。この結果の他にも、各種分析を行っております。教職員の経験や勘だけでなく、エビデンスに基づいた児童生徒一人一人をより一層伸ばすための指導・支援について、校内研修をはじめ、教職員で話し合う機会などで積極的に御活用ください。

来年度も本調査をC B Tで実施する予定のため、各学校におかれましては、教育活動の中でタブレット端末等を積極的に御活用いただきますようお願いいたします。県といたしましても、児童生徒一人一人の学力と学習意欲を確実に伸ばす教育を引き続き推進してまいります。

今後とも、御理解・御協力をお願いいたします。

令和7年1月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

高 田 淳 子

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

【 県教育委員会の取組 】

これまでの成果

- 「主体的・対話的で深い学び」は学習方略、非認知能力の向上を通じて学力を向上させる相関があること
- 学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や学習方略、非認知能力の向上に重要であること



- 「よいところを」認められた児童生徒は自己効力感が向上し、どの学年・教科でも学力が高い傾向があること

調査から見えてくる！

- 学力・学習の伸び
- 非認知能力・学習方略の状況
- 学習に対する意欲・態度の状況



埼玉県学力・学習状況調査
の実施・結果返却

総合的な支援

- ・全ての小・中学校等、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組の共有を促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

主な取組

- ・学力向上推進協議会の実施
- ・県学調結果の分析や効果的な活用のための支援
- ・優れた指導技術の共有・普及(映像・アクションリサーチ)
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまずきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

主な取組

- ・県学調結果に基づく市町村や学校に対する支援
- ・「未来を生き抜く人材育成」学力保障スクラム事業
- ・学力向上研究校指定事業
- ・学力向上プロジェクト教員の配置

【 市町村教育委員会・学校の取組 】

- ・調査データに基づき、児童生徒の実態を多角的・多面的に分析・把握
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善PDCAサイクルの確実な実施
- ・校内研修等で学力を伸ばした取組の共有

児童生徒一人一人の
学力を確実に伸ばす



【 児童生徒・家庭の取組 】

- ・自分自身の成長(伸び)を実感し、自己効力感を高めながら次の学びへの挑戦(児童生徒)
- ・「よいところ」「努力が必要なところ」を把握し、一緒に具体的な目標の設定(保護者)

目 次

はじめに

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象	2
(3) 調査の内容・方法	2
(4) 調査実施日等	3
2 CBT化と解答ログ	3

第2章 調査結果の概要

1 「学力の伸び」の状況（令和元年度～令和6年度）	5
(1) 学力のレベルの経年変化	5
(2) 各学年における各教科の領域ごとの解答ログの結果	5
2 調査から見られた傾向	7
(1) 「学習方略（努力調整方略）」と「学力」	7
(2) 「学びの系統性」と「学力」	8
(3) 「学びの系統性」と「学習の見通し」	9
(4) 「場面に応じた優しい言葉遣い」と「自分の考えの変容」	11
(5) 「学力」と「場に応じた態度」	13
【参考資料】これまでの分析から分かってきたこと（概要）	15
【参考資料】非認知能力や学習方略の質問事項	16

第3章 調査結果の活用

1 個人結果票、結果帳票の活用	19
(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方	19
(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方	20
(3) 家庭での活用の仕方	20
(4) 学級担任の活用の仕方	21
(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）	22
(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用（例）	23
2 授業改善への活用	27
(1) 教科別授業改善の視点	27
(2) 学習指導のポイント	29

第4章 特徴的な取組の紹介

1 草加市立稻荷小学校の取組	58
2 ふじみ野市立元福小学校の取組	60
3 上里町立神保原小学校の取組	62
4 加須市立元和小学校の取組	64
5 桶川市立桶川西中学校の取組	66
6 所沢市立狭山ヶ丘中学校の取組	68
7 深谷市立藤沢中学校の取組	70
8 越谷市立大袋中学校の取組	72

第5章 その他

- | | | | |
|---|--------------------------|-------|----|
| 1 | 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計 | | 75 |
| 2 | 調査に関するQ&A | | 79 |
| 3 | 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査 | | 83 |

第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の内容等について掲載しています。

さらに、令和6年度からCBT全面実施に伴い、問題の正誤の状況に加えて解答時間等も把握することができるようになり、各学校での児童生徒の状況について、分析の幅が広がりました。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

県内市町村教育委員会、小・中学校及び義務教育学校並びに小・中学校及び義務教育学校に在籍する児童生徒。(教育委員会、小・中学校ともにさいたま市を除く)

【実施校数 (実施人数)】

- ・小学校 686校 (137, 367人)
- ・中学校 351校 (128, 883人)
- ・義務教育学校 3校 (518人)
- ・県立中学校 1校 (234人)

(3) 調査の内容・方法

ア 調査の内容

(ア) 児童生徒に対する調査

a 教科に関する調査

(a) 対象学年及び対象教科

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

義務教育学校第4学年から第9学年まで (小・中学校の該当学年に準ずる)

(b) 出題範囲

学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前学年までの内容

b 質問調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

(イ) 学校及び市町村教育委員会に対する調査

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

イ 調査の方法

C B T (Computer Based Testing)

(4) 調査実施日等

ア 実施日

令和6年4月24日(水)～5月22日(水)

イ 調査時間

(ア) 教科に関する調査は各教科1単位時間

(小学校1教科40分、中学校1教科45分)

(イ) 質問調査は小学校、中学校とも20～30分程度

2 CBT化と解答ログ

令和6年度の本調査から、パソコンやタブレットを使用したCBTを全校で実施しました。動画で授業場면을再現した出題が可能となり、児童生徒の日頃の学習に即した出題が可能となりました。教師の指導方法の工夫・改善だけでなく、児童生徒が何度も見直しに時間をかけた問題を把握することで、学習支援が必要な児童生徒を早期発見することにより、児童生徒一人一人の更なる学力や学習意欲の向上につながっていきます。

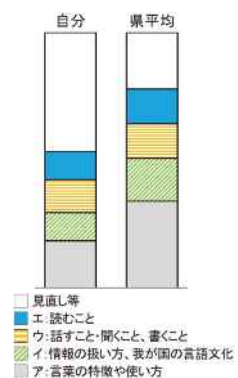
【参考例】映像を活用した問題



○ 動画で授業場면을再現した出題が可能

【参考例】個人結果票の一部

	あなたの 正答数	問題数	あなたの 正答率(%)	埼玉県 平均正答率(%)	あなたの かけた時間	県平均 かけた時間
ア	14	17	82.4	68.0	07分24秒	13分39秒
イ	5	6	83.3	64.2	04分25秒	06分40秒
ウ	2	5	40.0	51.3	05分07秒	05分26秒
エ	2	3	66.7	57.5	04分24秒	05分27秒
全体	23	31	74.2	63.6	21分20秒	31分12秒
未解答の問題	表示していない問題		あなたの 見直し等の 時間	埼玉県の 見直し等の 時間の平均		
なし	なし		18分40秒	08分48秒		



領域等	言葉の特徴や使い方
問題の概要	適切な接続語を選択する
見直し回数	1 正誤 正 県正答率 89.3%
かけた時間	00分23秒 かけた時間 県平均 00分22秒

○ 正誤の状況に加えて解答時間等を分析することで、より細かく児童生徒のつまずきを把握した指導改善が可能

第2章

調査結果の概要

令和元年度から令和6年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問調査の質問項目、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

1 「学力の伸び」の状況（令和元年度～令和6年度）

(1) 「学力のレベル」の経年変化（令和元年度から令和6年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- 多くの学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。



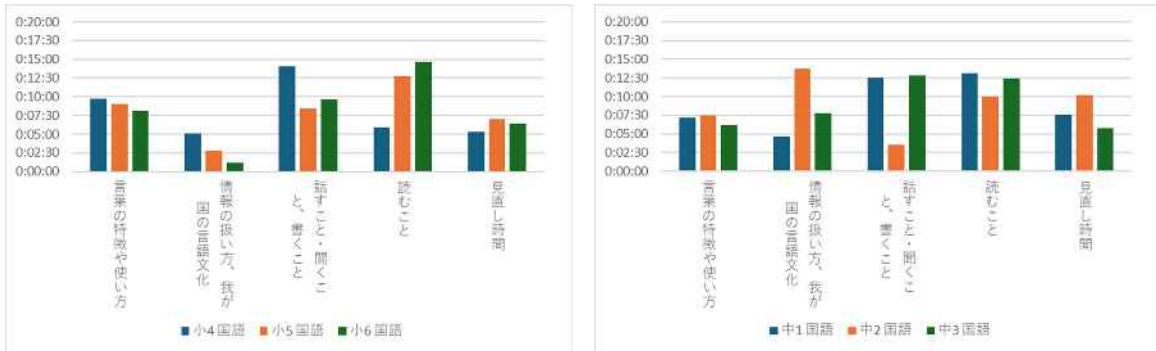
※表の数値は、各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定している。

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 各学年における各教科の領域ごとの解答ログの結果

〔国語集計結果〕



○小学校

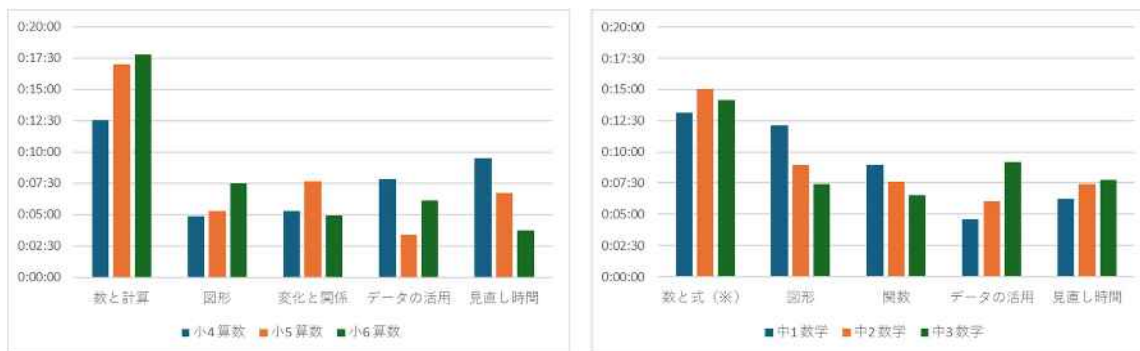
学年が上がるにつれて、「言葉の特徴や使い方」と「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域で、時間が短くなる傾向がある。

一方で、「読むこと」の領域では、学年が上がるにつれて、時間をかけている傾向がある。また、見直し時間では、どの学年も5分以上時間をかけて取り組んでいる。

○中学校

「言葉の特徴や使い方」の領域では、どの学年も同程度の時間をかけていることが分かる。また、2年生は「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域に時間をかけていること、見直しにどの学年よりも長い時間を取っていることが分かる。

〔算数、数学集計結果〕



※中1については、小学校「数と計算」より出題されている。

○小学校

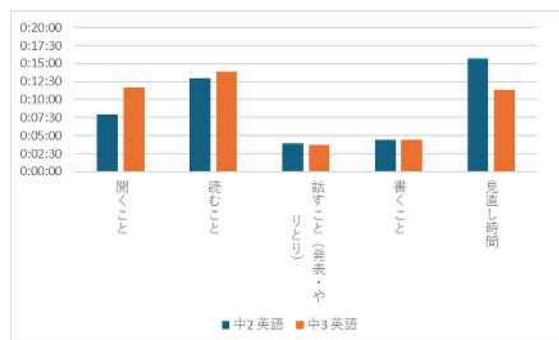
「数と計算」と「図形」の領域では、学年が上がるにつれて、時間をかけている傾向がある。5年生は、「変化と関係」の領域で他の学年よりも時間をかけているが、「データの活用」の時間が短くなっている。

学年が上がるにつれて「見直し時間」が減少傾向となっている。

○中学校

「数と式」の領域は、どの学年も同程度の時間をかけている。学年が上がるにつれ、「図形」と「関数」の領域で減少し、「データの活用」の領域と「見直し時間」が増加する傾向にある。

〔英語集計結果〕



「聞くこと」「読むこと」の領域では、学年が上がるにつれて増加傾向であり、「話すこと(発音・やりとり)」「書くこと」の領域は横ばいとなっている。

「見直し時間」は、学年が上がるにつれて短くなっている傾向である。

2 調査からみられた傾向

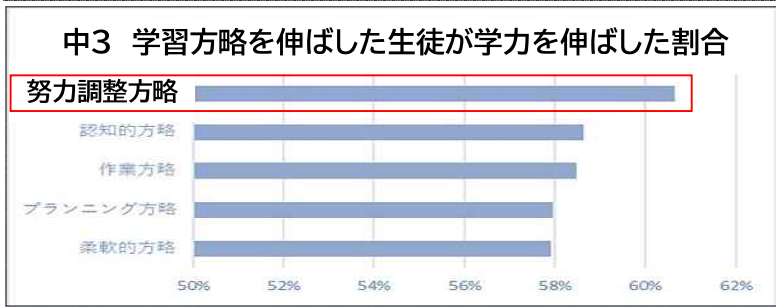
(1) 「学習方略(努力調整方略)」と「学力」

① 学習方略（努力調整方略）と学力

- 県学調で調査している努力調整方略とは、「苦手」などの感情をコントロールして学習へ向き合おうとする意識です。
- 令和6年度調査では、学習方略を伸ばした生徒の学力を伸ばした割合が高いことが分かりました。その中でも、特に、努力調整方略の「伸び」と学力の「伸び」に正の相関があることが分かりました。

努力調整方略の「伸び」× 学力の「伸び」

R6
正の相関を確認



② 努力調整方略を伸ばすための取組例

児童生徒の粘り強い取組を継続して支援します

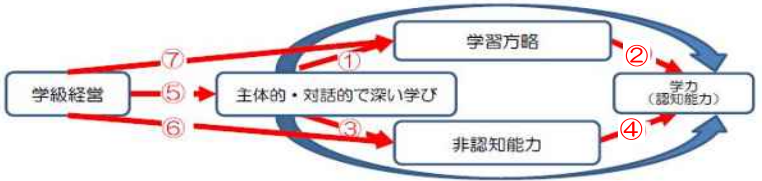
努力の過程を実感させる声かけをします



児童生徒のがんばりを見える化します

個々の目標を目指して努力している児童生徒それぞれの段階に合った声かけをします

【参考①】 県学調の分析から分かったこと



【①～④】 主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。
 【⑤～⑦】 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

【参考②】 令和5年度調査の分析から

- 自己効力感を伸ばしている児童生徒 × 学力の「伸び」
- 自己効力感を伸ばしている児童生徒 × 学習方略・他の非認知能力の向上

詳細については、[令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書 - 埼玉県 \(saitama.lg.jp\)](http://saitama.lg.jp)を御参照ください。

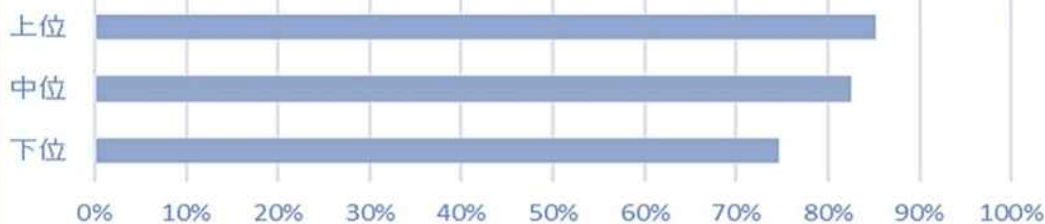
(2) 「学びの系統性」と「学力」

① 以前に学習した知識のつながりと学力

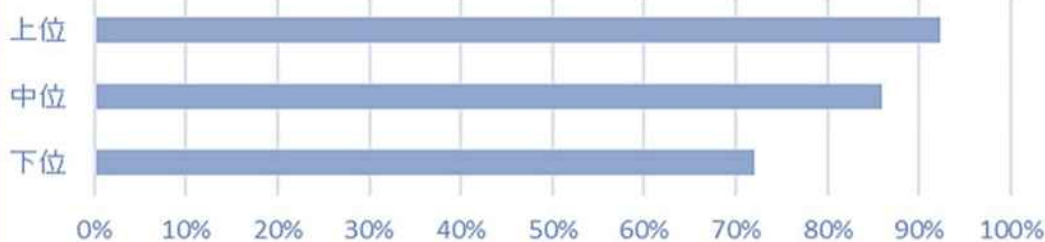
- 児童生徒質問調査の質問項目「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか」の回答と学力の関係について、正の相関関係が見られました。
- 令和4年度調査で、以前の知識とつながった経験があった児童生徒は、学力が高い傾向(*)にあることが分かっておりましたが、今年度新たに重回帰分析を行い、確かなものとなりました。

以前の学習した知識の「つながり」× 学力

小6 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか



中3 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか



(*)学力層別の 「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合
上位は学年の25%以上、中位は25%以上25%未満、下位は25%以下

② 個々の知識を結び付け、深い学びを促すための取組例



(3) 「学びの系統性」と「学習の見通し」

【概要】

「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながった」経験がある児童生徒ほど、自分自身について「授業の初めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだ」経験があると回答する傾向が見られる。

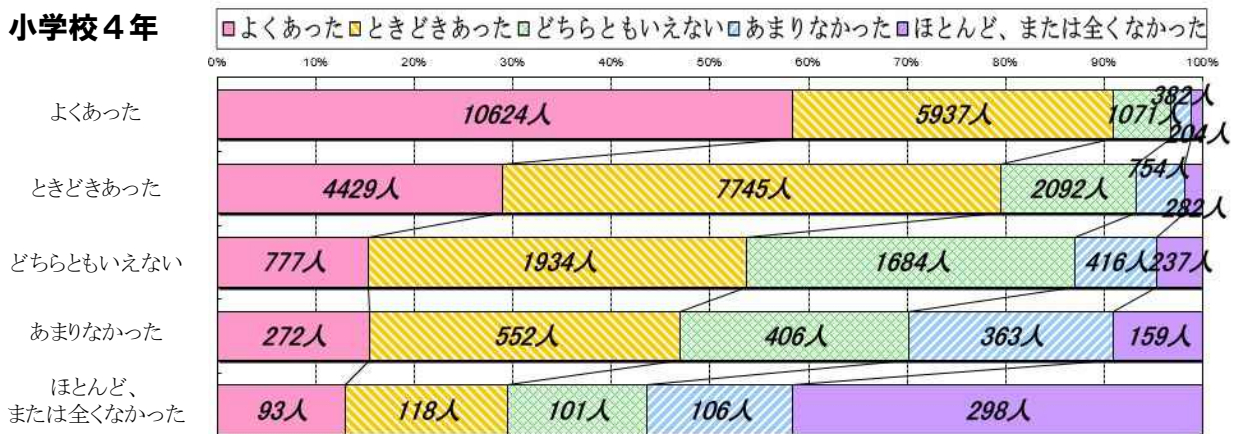
【先生方へのメッセージ】

- 学習の導入時に、前時や既習事項等の振り返りを児童生徒の学習の定着等を把握しながら、意図的な発問を行いましょう。
教材研究時の参考資料：帳票45の解答ログ(既習事項の正答率と解答時間)
- 振り返りを行った後に、児童生徒からの意見を聞きながら、本時の学習の見通しを教師がファシリテートしていきましょう。
- 教材研究時には、年間指導計画等を把握するとともに、教師自身が既習事項や今後の学習内容等の学びのつながりを大切にしながら、意図的・計画的に授業を行いましょう。

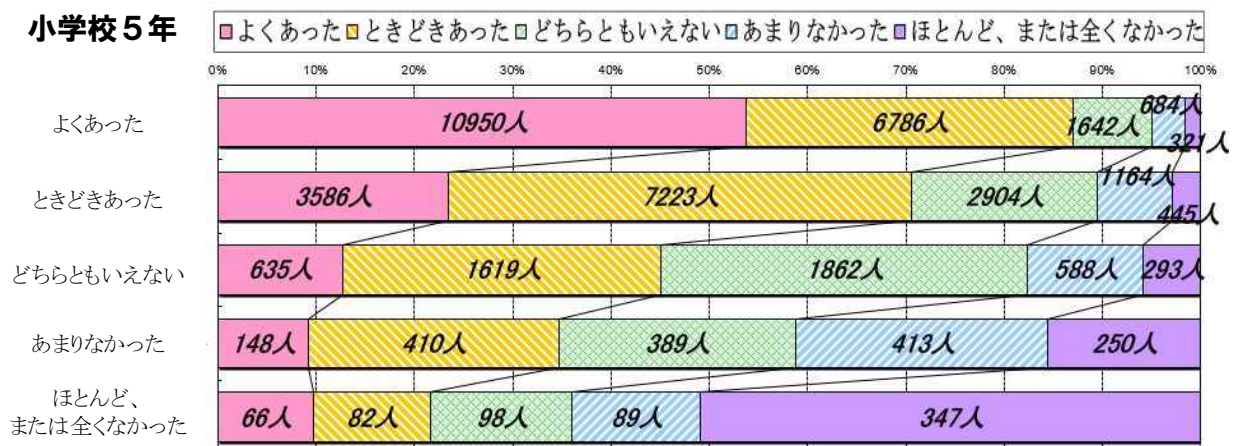
横軸カテゴリ⇒ 授業の初めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだこと

縦軸カテゴリ⇒ 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと

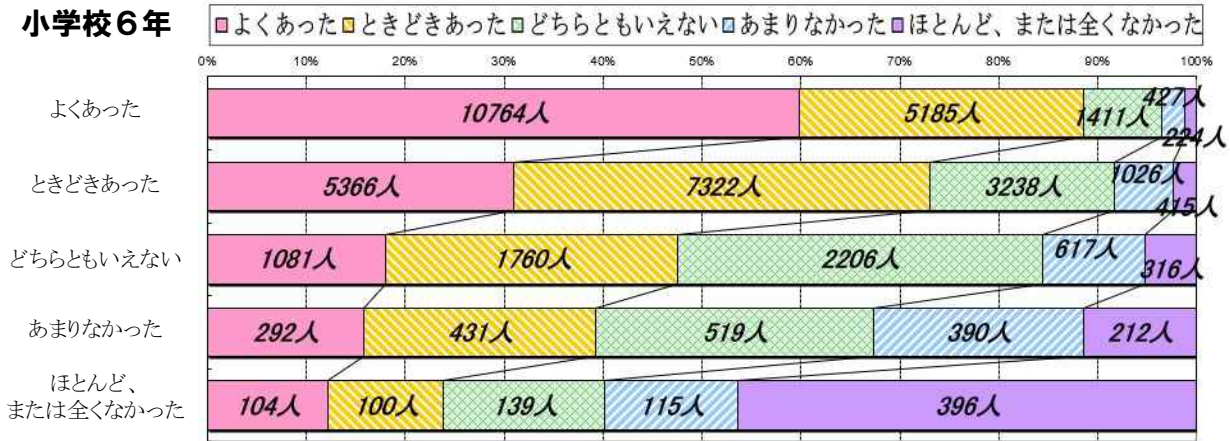
小学校4年



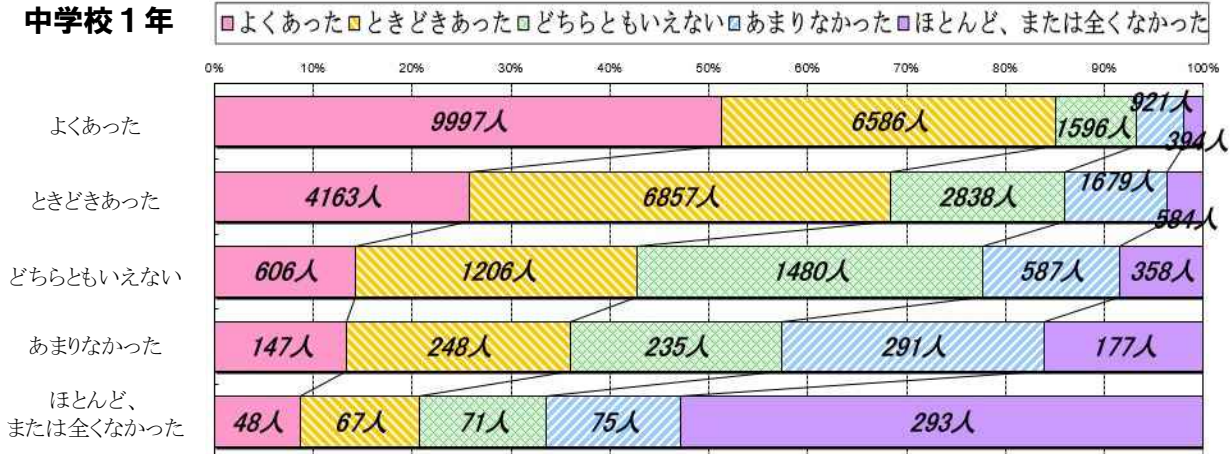
小学校5年



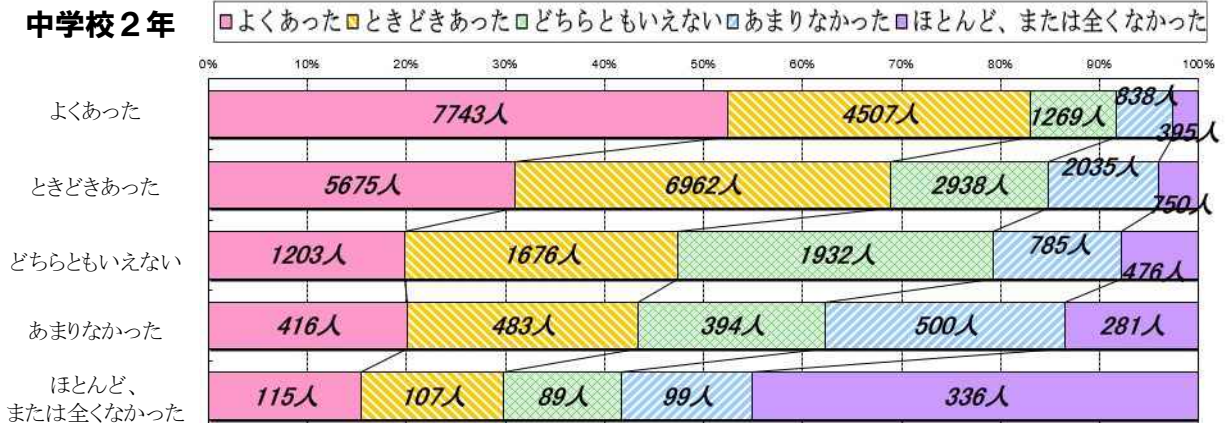
小学校6年



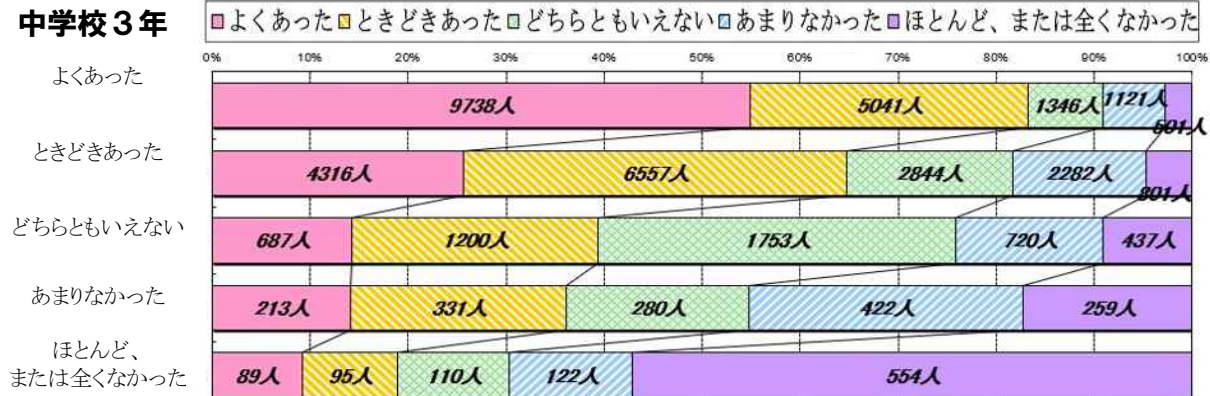
中学校1年



中学校2年



中学校3年



(4) 「場面に応じた優しい言葉遣い」と「自分の考えの変容」

【概要】

「相手の気持ちを考え(*1)、優しい言葉遣いができている」と回答する児童生徒ほど、「話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりする(*2)」傾向がある。

(*1) 中学校では、「相手の気持ちやその場の状況を考え」と質問

(*2) 小4、小6、中2は前学年の国語について、小5、中1、中3は前学年の算数、数学についての質問

【先生方へのメッセージ】

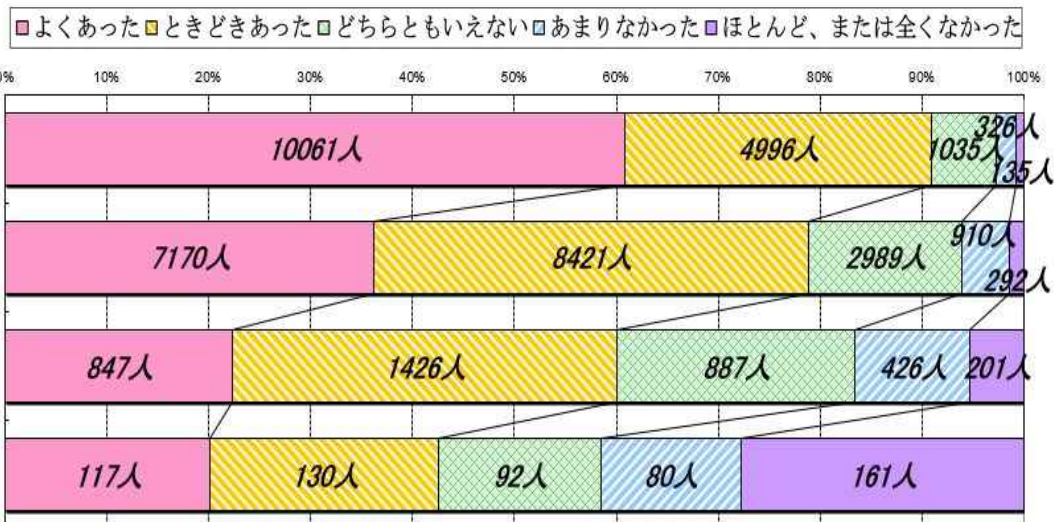
○ 道徳で、相手の気持ちや置かれている状況、困っていることなどを自分のこととして想像する場面を設定したり、学校生活の中で相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行っていることへの称賛をしたりしましょう。

○ 発表し合う機会を提供し、失敗を恐れない、間違いやできないことが笑われない、お互いに関心を抱き合う授業を展開し、共感的な人間関係を育成していきましょう。

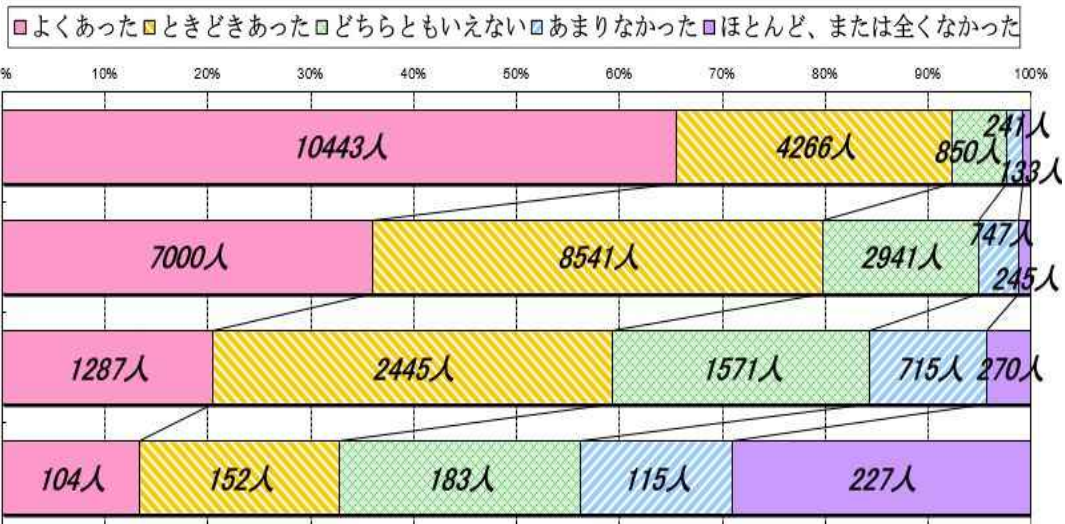
横軸カテゴリー⇒ 相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いできていますか

縦軸カテゴリー⇒ 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと

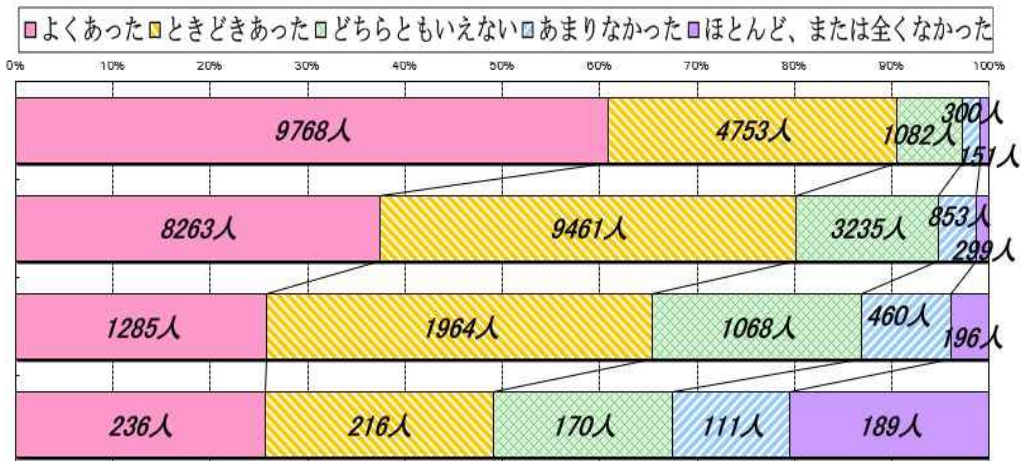
小学校4年



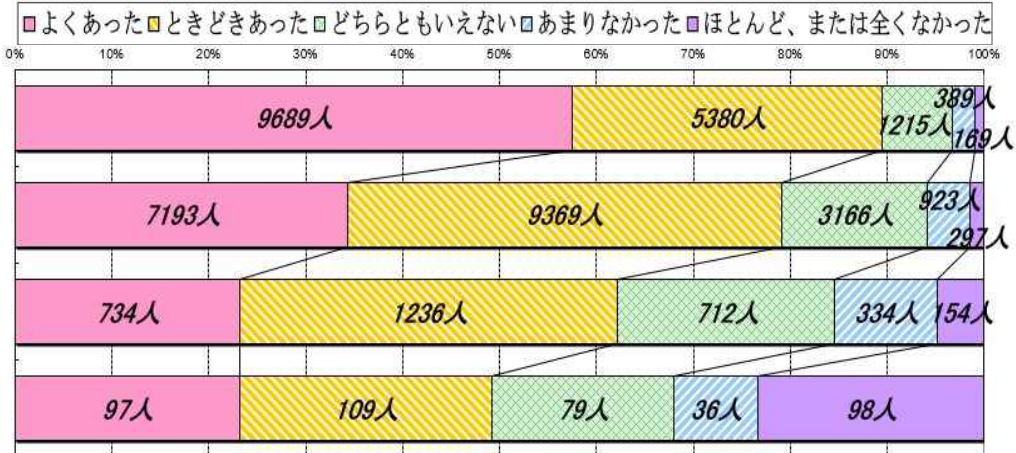
小学校5年



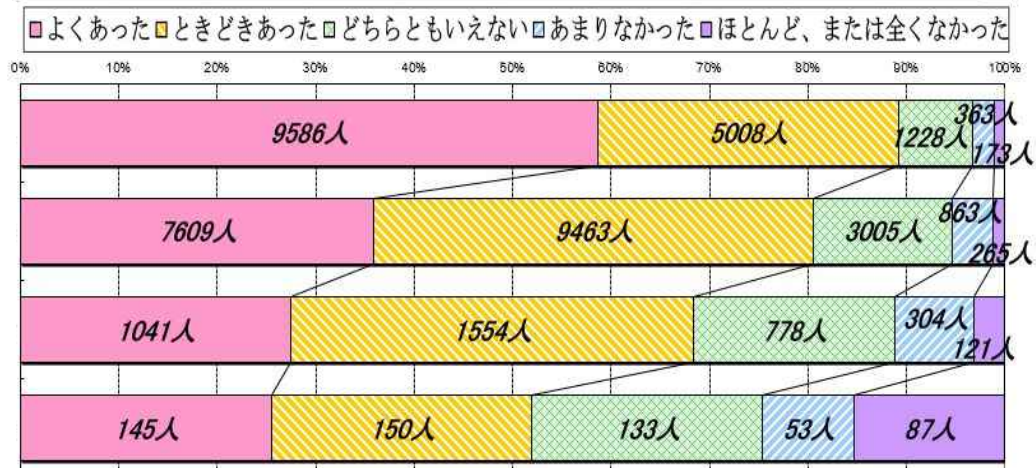
小学校6年



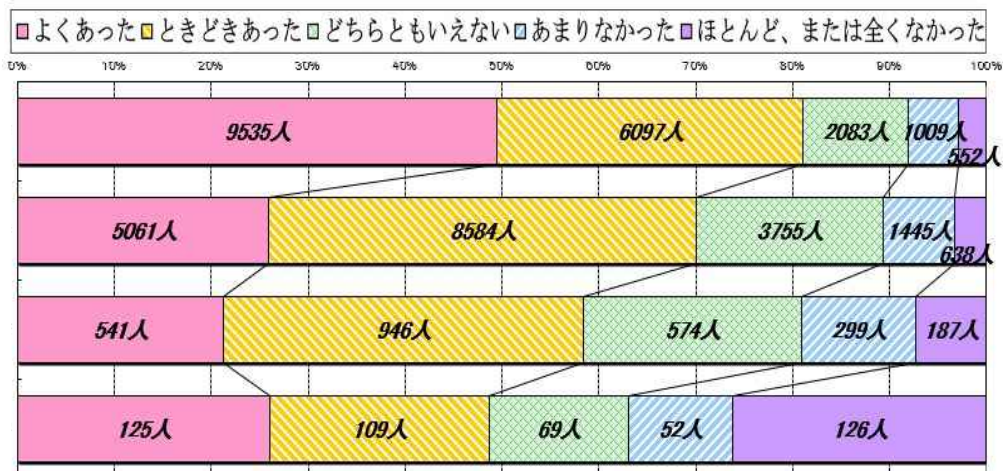
中学校1年



中学校2年



中学校3年



(5) 「学力」と「場に応じた態度」

【概要】

学力の上位25%は、「人の集まる場所では静かにし、その場にふさわしい態度をとることができる」、「よくできている」と回答している。一方で、「あまりできない」「できない」と回答している児童生徒の割合は、学力の下位25%が多くなる傾向がある。

【先生方へのメッセージ】

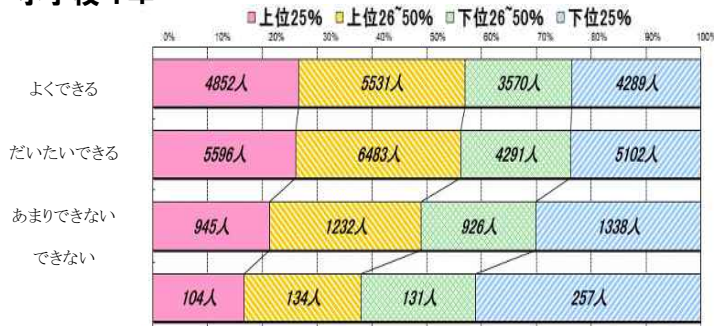
- 児童生徒が「人の集まる場所では静かにし、その場に応じたふさわしい態度」をとることができると思うためには、学校生活の中でのプラスの声かけ（小さなこと、当たり前のことでも称賛し、それを積み重ねていく等、できていることを実感させること）が何より大切です。日々の授業や生活の中での声掛けを継続的に行っていきましょう。
- ガイダンスを充実し、児童生徒が主体的な取組となるよう学級や学年集会等で話をしましょう。
参考資料：文部科学省「生徒指導提要（改訂版）」P.26『1.3.3 ガイダンスとカウンセリング』
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

横軸カテゴリー⇒ 学力層

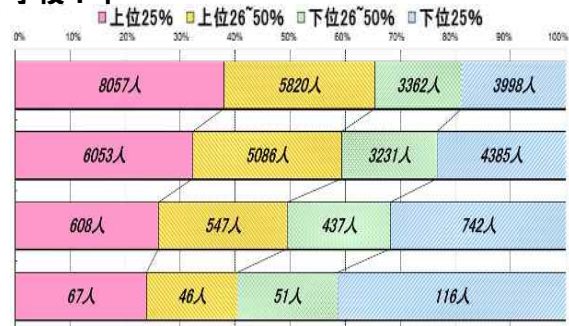
縦軸カテゴリー⇒ 人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことができますか

国語

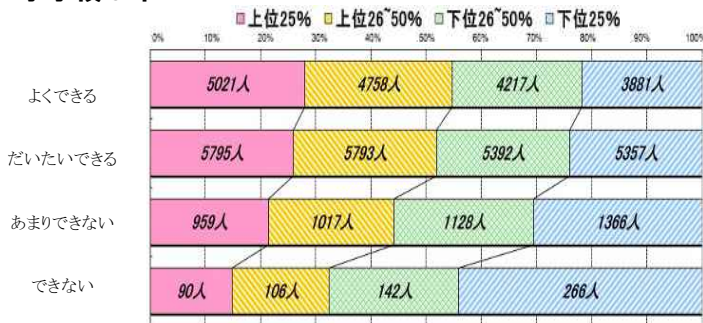
小学校4年



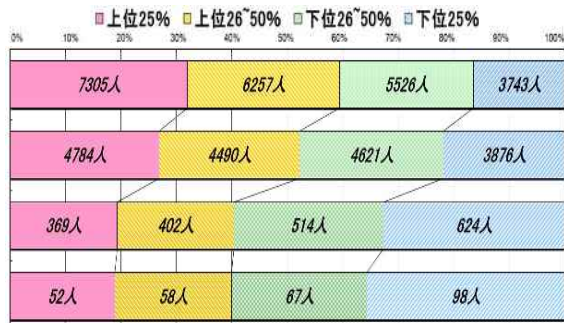
中学校1年



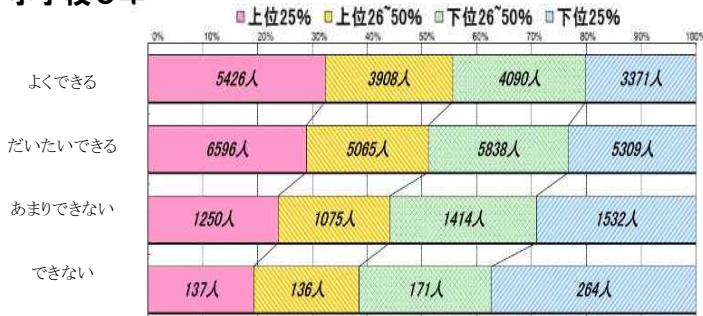
小学校5年



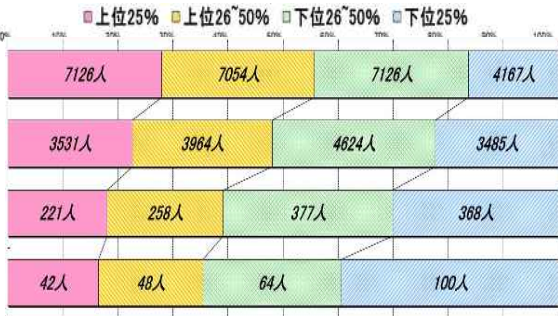
中学校2年



小学校6年

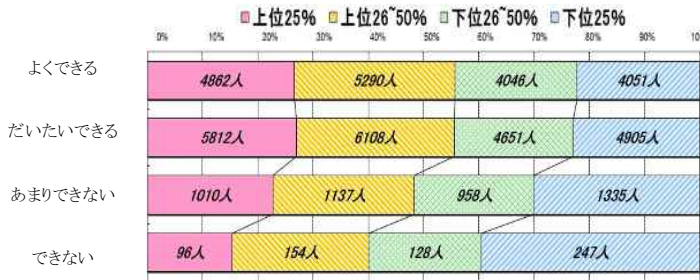


中学校3年

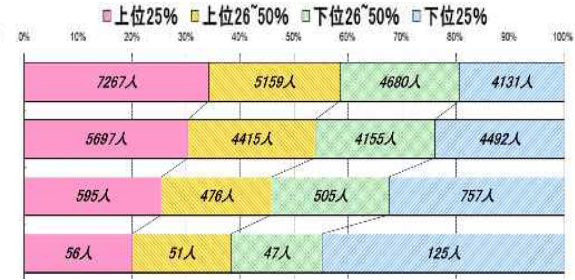


算数、数学

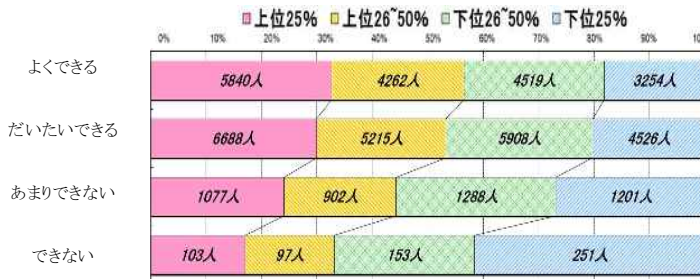
小学校 4年



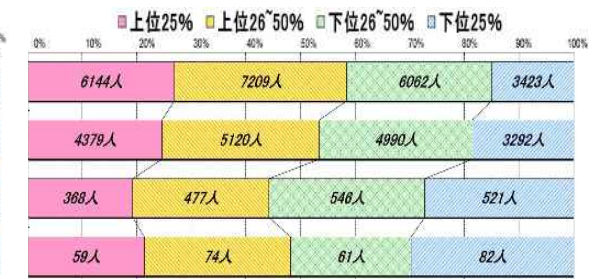
中学校 1年



小学校 5年



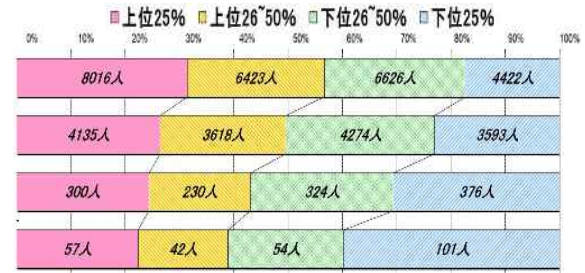
中学校 2年



小学校 6年



中学校 3年

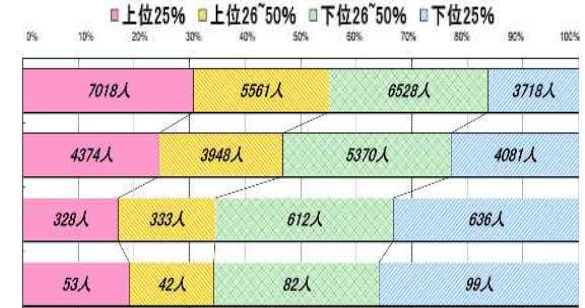


英語

中学校 2年



中学校 3年



【参考資料】これまでの分析から分かってきたこと（概要）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

平成 28 年度から令和元年度のデータ活用事業の分析から分かったこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営（落ち着いた学級づくり）が、学力や非認知能力を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ・保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営（落ち着いた学級づくり）を実現している傾向がある
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要である
- ・学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向がある
- ・毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要である
- ・学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する

非認知能力とは？

認知能力とは……いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

非認知能力とは…認知能力ではない能力全般

人間の能力

認知能力	非認知能力
	自己効力感 自分はそれが実行できるという期待や自信など
	自制心 イライラしない、心の平静を保てる など
	勤勉性 やるべきことをきちんとやる など
	やりぬく力 粘り強い、根気がある など
	向社会性 相手の気持ちを考える、親近感にする など

学習方略とは…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

埼玉県学力・学習状況調査では5つの方略に分類



【帳票40】を活用することで、

児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

なお、平成 28 年度から令和元年度まで実施したデータ活用事業の分析結果等の詳細につきましては、ホームページを御覧ください。(https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoku/20150605.html)

【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項

項 目	説 明
学習方略	<p>子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。</p> <p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
【児童生徒質問の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単などころだけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉(2007)、心理測定尺度集/堀洋道監修、サイエンス社	
項 目	説 明
非認知能力	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。</p> <p>① 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
【児童生徒質問の項目】 令和6年度の全学年に質問 自己効力感	授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができると思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う
	出典： P. Pintrich, et al.(1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

<p>② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学4年生、中学校2年生に質問</p> <p>自制心 授業に必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたって 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p> <p>出典： Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. <i>Developmental Science</i>, 16, 879-893.</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の中学1年生に質問</p> <p>勤勉性 うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りをはちらかけています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p> <p>出典： Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. <i>Personality and Individual Differences</i>, 34(4), 645-664.</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学5年生に質問</p> <p>やりぬく力 大きな課題をやりとげるために、しばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそってしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができませぬ 始めたことは何でもさい後まで終わらせませぬ 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちませぬ まじめにコツコツとやるタイプです</p> <p>出典： Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 92(6), 1087-1101.</p>
<p>⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力 (例) 相手の気持ちを考える、親切にする など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和6年度の小学6年生、中学3年生に質問</p> <p>向社会性 私は、誰に対しても親切にしようとしている 私は、その人の気持ちをよく考える 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける 私は、年下の子たちに対して、優しくしている 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする</p> <p>出典： Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. <i>Journal of Child Psychology and Psychiatry</i>, 38, 581-586. Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. <i>European Child and Adolescent Psychiatry</i>, 7, 125-130.</p>

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

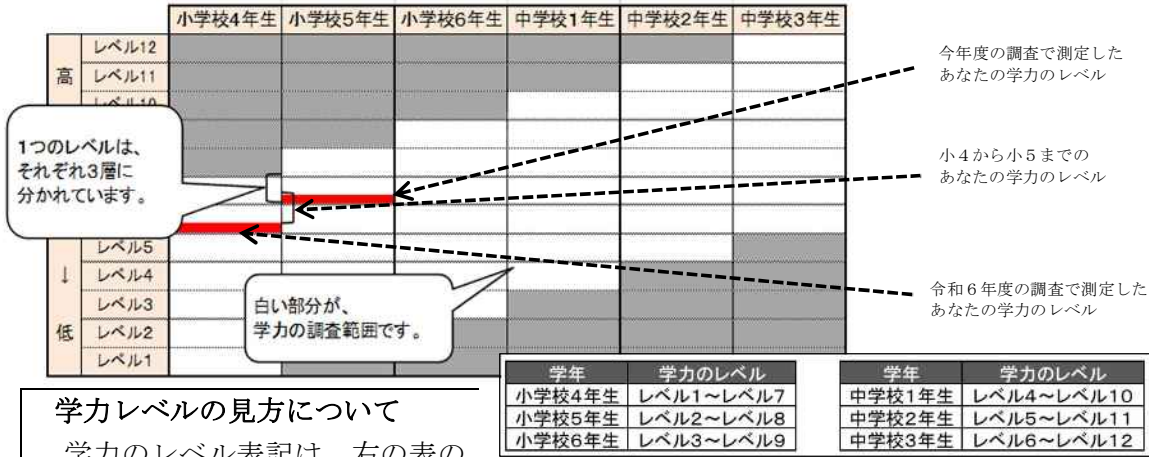
- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票、結果帳票の活用

(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方

例：小学校5年生の教科に関する調査結果の見方



学力レベルの見方について

学力のレベル表記は、右の表のとおり12段階となっております。

例示している小学校5年生ではレベル2からレベル8までの間で、学力のレベルが赤いバーの位置で表されています。

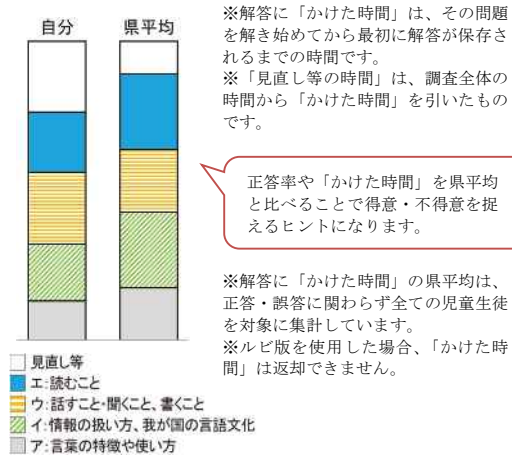
教科の領域等別正答率など

あなたの正答数	問題数	あなたの正答率(%)	埼玉県平均正答率(%)	あなたのかけた時間	県平均かけた時間
ア	14	82.4	68.0	07分24秒	13分39秒
イ	5	83.3	64.2	04分25秒	06分40秒
ウ	2	40.0	51.3	05分07秒	05分26秒
エ	2	66.7	57.5	04分24秒	05分27秒
全体	23	74.2	63.6	21分20秒	31分12秒

未解答の問題	表示していない問題	あなたの見直し等の時間	埼玉県の見直し等の時間の平均
なし	なし	18分40秒	08分48秒

未解答の問題「あり」＝解答を入力していない問題がある
表示していない問題「あり」＝最後の問題まで表示していない

領域別の解答時間分布



県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	話すこと・聞くこと、書くこと	領域等	言葉の特徴や使い方
問題の概要	相手にわかりやすくなる順番に話の内容を並べ替える	問題の概要	反対の意味の言葉を答える
見直し回数	7 正誤 正 県正答率 57.9%	見直し回数	2 正誤 誤 県正答率 67.8%
かけた時間	05分12秒 かけた時間 県平均 01分06秒	かけた時間	02分23秒 かけた時間 県平均 01分06秒

※全問正解や全問不正解や県平均ほど時間をかけていない場合には、「-」となって返却されます。
※見直し回数は、初めて解答が入力・保存された後に、その問題を再表示した回数です。

学習に関するアドバイス

今回の学力の状況や、今後どのような学習をすれば、お子さんの学力が上がるのかを記載しています。

※ 上記で示す学力は、この調査で測定したものであり、お子さんの学力のすべてではありません。

(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方

達成目標とその達成状況

達成目標			R6
けじめのある生活 ができる	1 時刻を守る	通学はんの集合時こくや登校時こくを守ることができますか	☆
		じゅ業や活動の始まる時こくを守ることができますか	☆
	2 身の回りの整理 整頓をする	ぬいだはき物のかかとをそろえることができますか	☆
		つくえやロッカーの中の整理整頓をすることができますか	☆
礼儀正しく人と 接することができる	3 進んであいさつ や返事をする	自分からはっきりあいさつをすることができますか	☆
		名前をよばれたら「はい」とはっきり返事することができますか	☆
	4 ていねいな言葉 づかいを身に付ける	時と場におうじた正しい言葉づかいができていますか	☆
		相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができていますか	☆
約束やきまりを 守ることができる	5 学習のきまりを 守る	学習のじゅんびを整え、じゅ業にのぞむことができますか	
		先生の話や友達の発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができますか	☆
	6 生活のきまりを 守る	人の集まる場所では静かにし、しせいを正すことができますか	☆
		進んでそうじをし、学校をきれいにすることができますか	

☆は選択肢の「よくできる」、「だいたいできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくできる」、「だいたいできる」を選択したことを表しています。

(3) 家庭での活用の仕方

① 「よいところ」「努力が必要なところ」を把握

調査では、学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」がわかります。毎年調査を受けることで「学力の伸び」も見ることができます。結果を見て、お子さんの現在の学力を知り、それをどれだけ伸ばしていくかということが大切です。学校の先生と話し合いながら、お子さんのよさを伸ばしていきます。

② 一人一人にあった「目標の設定」

「よいところ」「努力が必要なところ」を把握したら、お子さんに合った目標を立てていきます。

③ 家庭学習の習慣化

目標に向けて学力を伸ばしていくためには、学校の授業の予習・復習を中心とした家庭学習を習慣化していくことが必要です。家庭学習を習慣化するためにルール作りも一つの手です。(県学調の復習シート <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuuusi-to2.html> も御活用ください。)

(4) 学級担任の活用の仕方

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

返却前

個人結果票に、各学校で保管している個人番号票をもとに、名前を記入する。

※児童生徒に誤った結果が返却されないよう十分に確認の上、返却ください。

返却時

○児童生徒へ

- ・一人一人の1年間の伸びに注目し、認め、ほめてください。
- ・その後に苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- ・解答ログに着目して、県の平均と比較して時間をかけている領域や問題について、適切に声かけをします。
- ・今後の学習計画に対するアドバイスをします。

○保護者へ

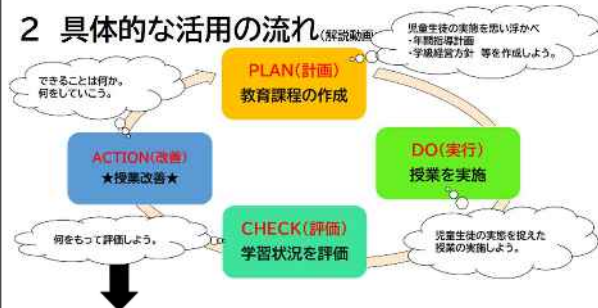
- ・可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- ・伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- ・家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用(例)

1 活用方法(解説動画: 県学調の特長3つ! 知っていますか?編)

- (1) 児童生徒の学力や学習に関する事項等の結果を把握し、つまずき等を早期発見する。
- (2) 早期解消のため、PDCA サイクルを確立し、組織的に分析・検証等を行い、指導の工夫改善を進める。
- (3) 児童生徒の1年間の伸びに注目し、認め、ほめるとともに、児童生徒、その保護者へ家庭学習を促す。

2 具体的な活用の流れ



埼玉県学力・学習状況調査の結果(PDCA サイクルの CHECK)

○調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④ACTION(改善)を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

○県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

内容	学級の 学力の伸びの状況	指導の工夫改善の 成果	各教科の 実態の把握
帳票の 分析例	帳票40 児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知能力の数値から気になる児童生徒の把握・分析	帳票04 学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票04と帳票10 2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析	帳票09 各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握 帳票45 県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較
活用例	・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討	・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用	・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討
検討者、 検討場面例	・担任、学年職員 ・学年会	・校内研修 ・学年会	・教科部会 ・校内研修
参考資料	総合教育センター義務教育指導課研修用サイトを参照	質問調査の活用に当たって	帳票09解説動画

(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用(例)

分析	学年全体の 学力の伸びの状況	学級の 学力の伸びの状況	各教科の 実態の把握	指導の工夫改善 の成果	学力を伸ばした教 員・よい取組の発掘
帳票の 分析例	帳票28 1 平均学力のレベルの 状況の把握・分析 ①学力の伸び幅の違い ②学力のレベルの違い 2 学力階層別の伸びの 状況の把握・分析 ①学力層別の学力の伸 びの状況 ②埼玉県グラフの傾 きとの比較 ③各学力層の学力のレ ベルの把握	帳票40 児童生徒一人一人の 学力のレベル・伸び・ 学習方略・非認知の 数値から気になる児 童生徒の把握・分析	帳票09 各教科の領域ごと・設 問ごとの正答率、無解 答率や難易度の県平均 の比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生 徒の割合、学力のレベ ルの伸びの平均の把握 帳票45 県平均と領域ごと・設 問ごとの解答ログの比 較	帳票04 学校の回答と市町村教 委、県平均の回答状況 の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町 村教委、県平均の回答 状況の比較 帳票04 と 帳票10 2つを比較することで、 教職員と児童生徒の意 識の差の分析	帳票42 帳票を前学年の学級ご とに並べ替え、「学力の 伸びの平均」や「学力を 伸ばした児童生徒の割 合」を計算することを分 析
活用例	・学力を伸ばした先生が行 っている効果的な取組を学 校全体で共有	・気になる児童生徒に対 する具体的な手立てと 方策の検討	・既習事項と結び付けた 導入の工夫 ・授業改善に向けた具体 的な取組の検討	教職員と児童生徒が「主体 的・対話的で深い学び」の視 点から授業を振り返り、調査 結果を授業改善に活用	・学力を伸ばした先生が 行っている効果的な取組 を学校全体で共有
検討者、 検討場面 例	・校内研修 ・学年会	・担任、学年職員 ・学年会	・教科部会 ・校内研修	・校内研修 ・学年会	・学校担当者
参考資料	帳票28 解説動画	総合教育センター義務教育指 導課研修用サイトを参照	帳票09 解説動画	質問調査の活用 に当たって	令和5年度埼玉県・学力学習状 況調査報告書

さらに分析を進める方法

- コバトンのびのびシート(学力に課題のある児童生徒の学力や学習の状況把握等)
- 分析支援プログラム(「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査項目のクロス集計)

仮説を設定するまでのプロセス(例)



①実態把握

②分析

③仮説

ACTION
(改善)

協議、意見交換を経て、仮説を設定し、それに基づいた改善を行っていきます。

なお、校内研修で、教科部会と学年会でそれぞれ検討したものをとりまとめ、協議し、全校の取組にすることなども考えられます。

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
- (例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

仮説の設定

- 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例 「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増えるだろう。」

<重点項目> (学年(学校)の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。
- ② 授業規律を大切にする。

帳票42の活用例

伸ばした先生の効果的な取組の共有

【例】伸ばした先生への聞き取りや授業参観(「[授業力](#)」[自己診断シート](#)を活用した参観など)

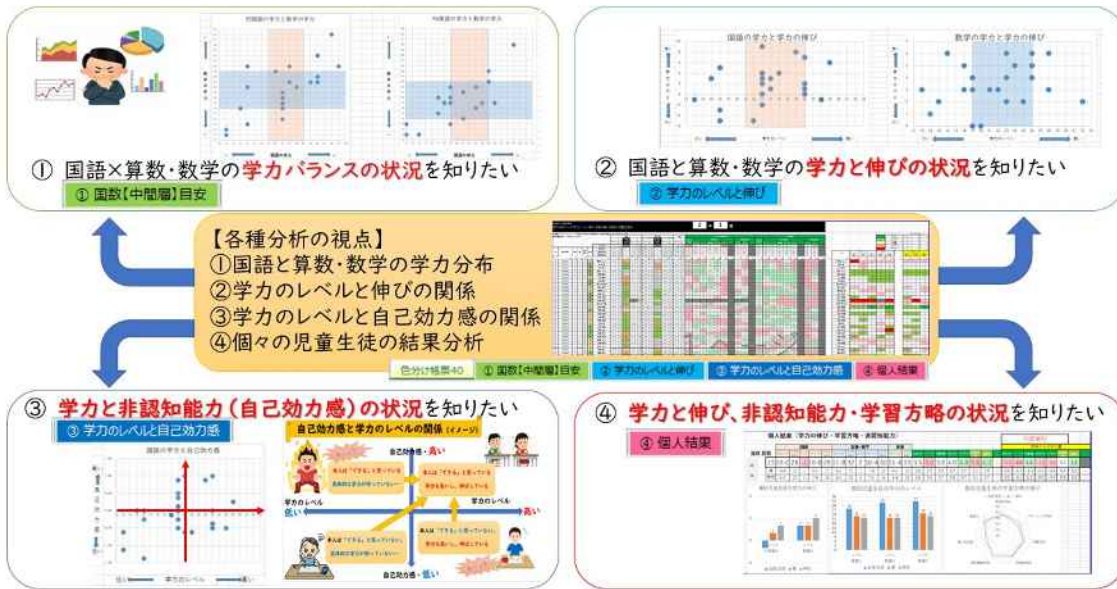
<聞き取り例>

- ・子供たちと接するとき、心がけていること(前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等)
- ・授業の導入場面での工夫(興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等)
- ・授業の展開場面での工夫(言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等)
- ・授業の終末場面での工夫(まとめの仕方、振り返りの充実等)
- ・学年で指導を徹底した取組(規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等)
- ・家庭学習の取り組ませ方(目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等)

(NEW) 帳票 40 色分けツールの活用・分析 (例)

新しくリニューアルした帳票 40 色分けツールについて紹介します。

帳票 40 は子どもたち一人一人の学力の伸びや非認知能力・学習方略の様子が一目でわかる帳票です。しかしながら、県学調は個人情報を取得できないため、返却されたものは個人番号順であり、出席番号や氏名もなくすぐに活用できる状態ではありません。そこで学校に保存してある個人番号管理表を活用し、ひと工夫するだけで色分けができるツールを令和 3 年度から配布してまいりました。今年度の変更は個人番号管理表が変わったことに伴う修正と、より多面的な視点で分析ができるように分析シートを追加しました。



(NEW) 帳票 09 色分けツールの活用・分析 (例)

帳票 09 (原本) は各学年の平均正答率や学力のレベルとその伸びに加え、各領域の様子や、個別の問題ごとの正答率の様子がまとまっています。その帳票 09 に色を付けて分析するツールや、クラス版の帳票 09 が作成できるツールを作成しましたのでご紹介いたします。

確認ポイント①
県平均正答率と当該クラスの平均正答率の差を確認し、クラスの現状を俯瞰して見る

確認ポイント②
県平均正答率と自校の平均正答率の差を領域ごとに確認し、クラスの現状を分析する

【参考】色分けツール・マニュアルの保存場所

色分けツールを手に入れるには...

(義務教育指導課研修用資料サイト)

- ①「埼玉県立総合教育センター」HPを開く
- ②ページ内下部「義務教育指導課研修用資料サイト」をクリック
- ③個々のID・PASSでログイン
- ④県学調活用資料のページからDL



県学調活用資料

令和6年度版の帳票09、40を活用するツールを動画説明の下に掲載しました。(R6.8.8更新)

①令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の活用方法等説明資料

- (1) 【配布用】 PDCAサイクル.pptx
- (2) 【配布用】 03【帳票40Ver.2.1：色分け】.pdf
- (3) R6県学調活用説明資料.pdf

活用方法説明動画一覧

※関心のある動画をクリックするとYouTube（外部公開）に接続します。



ID : PASS:
市町村・学校ごとに割り振られています。
「優れた指導技術の共有・普及(映像)」のもの
御確認ください。

2 授業改善への活用

(1) 教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、全学年で「読むこと」の平均正答率が他領域よりも低くなっており課題が見られる。
- 中学校では、学年ごとに正答率の高い領域と課題の見られる領域が異なる。中1では「読むこと」中2では「情報の扱い方、我が国の言語文化」、中3では「話すこと・聞くこと、書くこと」に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業や単元で身に付けさせるべき言語能力を明確にすることで、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

言語活動を通して、児童生徒が課題の解決に向けて他者と話し合ったり交流したりする場面を意図的に設けましょう。そして、その際には児童生徒が解決すべき課題を明確にすることや他者との意見や考えの比較がしやすくなるように工夫することなどが大切です。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が、既習事項を活用しながら、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにし、「言葉による見方・考え方」を働かせられるようにしましょう。

算数、数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、「数と計算」の「2位数の除法の計算ができる」、「図形」の「平行な直線とそれと交わる直線でできる角度を求める」「角柱について、平行な面を選ぶ」の正答率が高い傾向であった。
- 中学校では、「変化と関係」の「等しい比を選ぶ」（第1学年）「数と式」の「正負の数の加法の計算」（第2学年）「文字式の計算」（第3学年）の正答率が高い傾向で、「関数」の領域で課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業準備の際に、自校の児童生徒の領域の正答率、解答ログ等の状況と県平均との差異を確認しながら、授業内で児童生徒に既習事項との系統性を意識させる工夫を検討しましょう。学習のねらいに迫る課題を児童生徒とのやり取りから設定したり、新たな問いを見出したりしましょう。授業の振り返りの場面では、児童生徒と対話をしながら、児童生徒の言葉を使って振り返りを行い、まとめは児童生徒一人一人にノート等に行わせましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が考えをもつための支援をしましょう。また、問題を焦点化し自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深めることができるようにしましょう。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統一的・発展的に考える機会を設定しましょう。

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 中2、中3ともに、与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くことに課題が見られた。
- 文法事項としては、動詞、助動詞などの活用に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

単元目標と本時の目標を明確に示して、生徒が見通しをもった学びをできるようにするとともに、ここまで学習してきたこととできるようになったことを示し、単元の目標を達成するために本時の学習と既習事項のつながりを意識した授業づくりを実践しましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

コミュニケーションを行う目的・場面・状況や、相手意識もたせ、必然性のある活動を設定しましょう。言語活動では良い表現や課題を共有する中間指導（活動の間に行う指導）を取り入れましょう。また、対話を通して得た情報や表現を活用してより豊かな表現にさせるよう工夫するなど、生徒の考えを広げ深めさせるようにしましょう。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、相手を意識して自分の考えを文章等でまとめる活動を設定しましょう。また、振り返りの場面で学習課題をどのように解決したかを考えさせたりするなど、生徒が深く思考等をするための支援をしましょう。

【参考資料】 主体的・対話的で深い学びの実現 6則

埼玉県教育委員会

毎玉の子供たちを「人財」として輝かせるために!

主体的・対話的で深い学びの実現 6則

毎日の授業では、子供たちが「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」など、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、教員が**変容（伸び）**を見取ることが大切です。そのためには、**主体的・対話的で深い学びの実現**に向けた**授業改善**が有効です。…あなたの授業を見直してみませんか？

変容によって…

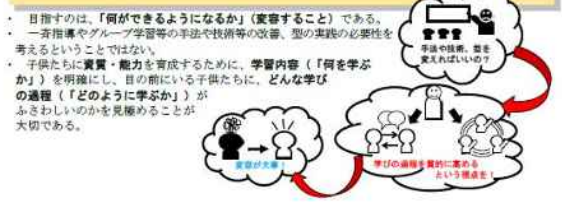
- ・ 機械的に記憶するよりも意義や意味を考えることで、より一層、知識や技能の定着を図ることができる。→**知識・技能の習得**
- ・ 自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力が向上する。→**思考力・判断力・表現力等の育成**
- ・ 主体性に加えて、チームワークや優しさなど、人間性が向上する。→**学びに向かう力・人間性等の涵養**

1. 【主体的・対話的で深い学びって何？】

- ・ **主体的な学び**: 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決しようとする
- ・ **対話的な学び**: 学び合い等、他者と協働すること等によって、**自己の考えを広げ深めること**
- ・ **深い学び**: **見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること**

2. 【何のために、主体的・対話的で深い学びの実現を？】

「何ができるようになるか」という子供たちに必要な**資質・能力**を育成するため。そのためには、「何を学ぶか」という**学習内容**と、「どのように学ぶか」という**学習の過程**を組み立てていく**授業改善**が重要である。



3. 【「どのように学ぶか」をいま一度見直す】

子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けるために、特に、「**どのように学ぶか**」という**学びの過程**に着目して、**授業の質を高めること**。

資質・能力の育成に向けて、子供たち一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出ししていく上で、特に、**主体的・対話的で深い学び**の視点を踏まえた「**どのように学ぶか**」という**学びの過程**について着目し、授業の工夫・改善に取り組むことが重要である。

4. 【変容を見取ること】

「**何ができるようになるか**」という視点で、教員は子供たちの**変容（伸び）**を見取ること。

子供たち一人一人が資質・能力を身に付けて、何ができるようになったかという**変容（伸び）**を子供たち自ら実感し、教員もその**変容（伸び）**を見取れるようにすることが大切である。

5. 【信頼関係に基づく学級づくりを】

主体的・対話的で深い学びを目指した授業と、信頼関係に基づく学級づくりを「車の両輪」として進めていくこと。

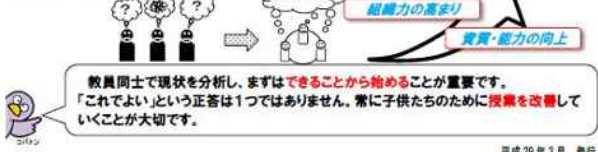
学校は、子供たちが日々の生活を共にする基礎的な集団であり、学習活動や学校生活の基盤となることから、担任をはじめとした全教員と子供たちの信頼関係及び子供たち相互の好ましい人間関係づくりが重要である。

子供たち一人一人の発達を踏まえ、学級での人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで、各教科等の授業において**主体的・対話的で深い学びの実現**につながり、さらに学級づくりが充実する。

6. 【学び続ける教員集団であるために】

授業改善を目指して、教員同士で、**深く考え、学びを通じて変容**すること。

教員が子供たちに求められる資質・能力を育むために、必要な学びの在り方を絶えず考え、教員同士で学び合うことで、様々な観点から授業の工夫・改善について議論を重ね、**主体的・対話的で深い学びの実現**を目指す。



教員同士で現状を分析し、まずは**できることから始める**ことが重要です。「これぞよい」という正答は1つではありません。常に子供たちのために**授業を改善**していくことが大切です。

平成29年3月 発行
令和元年7月一版改定

(2) 学習指導のポイント

小学校 第4学年 国語 15

問題の学力のレベル
レベル7-C

○ 調査問題

15] 次の文章を読んで、(3)の問いに答えましょう。

風花さんが本を読んでいると、「ごはんをよそい、テーブルに運ぶ。」という文が出てきました。風花さんは「よそい」の意味がわからなかったので、兄の明さんにたずねました。
明さんは、国語辞典を引けばよいと言いました。そして、「よそい」を国語辞典で調べるときは、「①」という言い切りの形に直して調べるのだと教えてくれました。
風花さんは国語辞典で調べて、この言葉には、いくつかの意味があることがわかりました。

(3) 次の4つの言葉を、国語辞典で調べるときに出てくる順番にならべかえましょう。

しあわせ じっくり しごと するし

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】国語辞典に出てくる順に言葉を並べ替える

【出題の趣旨】辞書の正しい使い方を理解する

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 しあわせ⇒しごと⇒ じっくり⇒するし	9 その他の解答	0 無解答
反応率	37.5%	60.2%	2.2%

- 正答率は37.5%であった。
- 主な誤答は、「しあわせ⇒しごと⇒するし⇒じっくり」と回答したものや「しあわせ⇒するし⇒しごと⇒じっくり」と回答したものであった。「じっくり」は濁点がつき、促音が入っているからという理由で、4番目に選んだ児童が多かったように考えられる。また、「しごと」も濁点がついているため、清音でできている「するし」を先に回答している誤答も多く見られた。
- 単語そのもので考えるのではなく、1文字目、2文字目と順番に比べてみていくことを基本とし、清音⇒濁音⇒半濁音の順序で載っていること、促音がついていても、五十音順に並んでいるという国語辞典のルールを確認したい。それらのルールを定着させていくには、短い時間であっても、継続して国語辞典を活用する活動を常時取り入れていく必要がある。

○ 復習シートとの関連

【出典】R2 復習シート 【学年・単元】小学校4年生 言葉

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r2s4koku-kotoba-q2.pdf>

○ 指導上のポイント

国語辞典の使い方を学習した後、辞書を継続活用し語彙を豊かにしていく指導

【見出し語の順序・ルールを確認する場面】

【季節の言葉を学習する場面】※ICT との関連

見出し語が
どんなじゆん
でならんでい
ますか。国語
辞典でたしか
めよう。

どんな順か、予想してから国語辞典でさがして確かめてみましょう。

最初の文字は全て「あ」だね。そうしたら、次の文字で比べよう。

「し・じ・つ」の順になりそうだよ。でも、「あじ」と「あした」だったらどっちが先かなあ？

辞書で引いてみよう。「あじ」と「あした」だったら、「あじ」の方が先に載っているね。2文字目だけで比べてはだめなんだね。

次は3文字目だね。「あした」と「あじさい」だったら、2文字目は「じ」の方が後ろだけど、「た」と「さ」だったら「さ」の方が先だね。「あじさい」が先なんだね。
『上から順に1文字ずつ』だね。

では、「パン・はん・バン」だったらどうか。「じゅう」と「じゅう」だったらどうか。みんなで協力して調べてみましょう。

秋にぴったりの言葉を見つけよう。

辞書の中からいくつ見つけられるかな。

「秋」から調べてみたら、「秋口」「秋晴れ」「秋の七草」が見つかりました。

「すずしい」から調べてみたら「すずき」「涼風」「鈴虫」も見つかったよ。「涼風」って初めて聞いたよ。「すきま風」「炭火」はもう少し寒い冬の言葉かな。

国語辞典の様々なルールを教師が一方的に説明するのではなく、実際に辞書を引かせながら、児童が自分の言葉で説明できるようにさせることが大切です。さらに、辞書を活用して語彙を広げていくためには、授業内の指導だけで終わることなく、手元に辞書を置き、いつでもどんな場面でも使えるような環境を整え、継続して活用していくことが重要です。



中学1年「語彙」の指導において「語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意」とあります。小学校の「読むこと」の学習でも難語句の意味調べで終わらず、文脈に合わせた意味理解ができるように指導していくことが大切です。

小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

	Aさん	Bさん	Cさん
秋らしい言葉	スイートポテト	赤とんぼ	秋雨前線
	スカーフ	アキアカネ	秋晴れ
	涼風(すずかぜ)	秋落ち	秋口和
	すずき	秋風	秋めく
	すずしい	秋草	あけび
	すずなり	秋口	暮さ寒さも彼岸まで
	すずむし	秋雨	
	すそもよう	秋盆すび	
	スポーツの日	秋の七草	



辞書で引いた言葉を同時編集ができる表計算ソフト(スプレッドシート)に各自が打ち込んでいき、班で言葉をたくさん集めていく。その中で秋にぴったりの言葉はどれか、互に見つけた言葉について話し合う時間を設けた。班ごとにシートを分けているが同じファイルにしているので、他の班が調べたものも共有できるようにした。

本時では【「あ」もしくは「す」から始まる言葉】という制限を設けて、時間内に協力して辞書から探す活動に取り組んだ。辞書を引く範囲に制限を設けることでより探しやすくなり、見出し語の順にも気が付きやすくなった。

○ 調査問題

18 次の文章を読んで、あとの問い(1)～(4)に答えましょう。

1 イヌもネコも人間も、舌の表面を中心に「味蕾」という味を感じ取るセンサーをもっています。生物が味覚という感覚を得たのは、口に入れたものが食べものかどうか判断するためでした。過去に食べたものとちがう味、おかしい味がしたら、有毒がもしれない。傷んでいたり、腐っているかもしれないので、べっと吐き出す。悪い祖先からそんなことを繰り返してきたのです。そこに進化の過程で「味わう」という要素が加わって、味覚が発達してきたと考えられています。

2 哺乳類を見ると、味蕾の数は肉食動物で少なく、草食・雑食動物で多い傾向があります。雑食の人間が5千～8千個ほどなのに対し、身近な肉食動物のネコは500個前後、一方、単しか食べていないはずのウシには、人間の3～5倍の2万5千個も味蕾があり、微妙な草の味のちがいを感じながら食べているようです。意外です。

3 鳥類の舌にももちろん味蕾はあり、味のちがいを感知することができます。ですが、一般に、鳥類は哺乳類に比べて味蕾の数が一桁から二桁も少ない傾向があります。

4 哺乳類は舌で飲みちぎり、咀嚼して飲み込みます。鳥類は口くちばしに進化したために噛めず、エサをそのまま飲み込むことが多くなりました。つまり、味を感じることなく食べと送られてしまう。これでは味舌があってもあまり意味がないというところで、その部分が退化したと考えられています。

5 実際、泳ぎながら魚やイカを飲み込んでいるペンギンは、味蕾が少なく、酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告もありました。人間が感じる味覚には、甘味、酸味、塩味、旨味、うま味の5種類がありますが、ペンギンは甘味など、3つの味覚を退化させ、失ってしまったようです。

6 地上を歩くのハトやニワトリは、数十という数の味蕾しかないことがわかっています。それでも問題が生じないのは、多くの鳥が、「実が赤く熟せば食べられる。緑のままだとまだ固い。茶色になったら腐った証拠」など、食べられるかどうかの判断を、味ではなく、目で見て行っているからです。

7 鳥は総じて味蕾の数が哺乳類より少ないのですが、インコ・オウム類はかなり特殊で、およそ360個と、鳥類の中でもっとも多い味蕾をもっています。比較すると、ネコよりもわずかに少ない数、ということになります。しかも、インコやオウムの味蕾は多くの鳥類とはちがっていて、哺乳類の味蕾にそっくりな形状をしていることもわかっています。

※1 哺乳類：肺で呼吸し、乳で子育てする動物。
※2 咀嚼：食べ物を噛みくだくこと。

(2) 3つの味覚を退化させたとありますが、具体的にどの味覚を退化させましたか。次の2つの にあてはまる言葉を書き出して入力しましょう。

<解答らん>
甘味と と

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】 文章中の語句が具体的に指している言葉を空欄に合うように抜き出して入力する。
- 【出題の趣旨】 事例に注目して文章の内容を捉える。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 「苦味」、「うま味」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	38.5%	57.0%	4.5%

- 正答率は38.5%であった。
- その他の解答の中では「酸味」、「塩味」と解答した比率が53.1%と最も多かった。理由は、本文⑤段落2行目の「酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告……」の「以外」を読み飛ばしている可能性が考えられる。
- 文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて文の構成についての理解を図ると共に、段落相互の関係から、筆者の意図する考えやそれを支える理由や事例などを構造的に捉えることが大切である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R6 復習シート【学年・単元】小学校5年生 読むこと
【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r6s5kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

叙述を基に、文章の内容を捉えるための指導

① 語彙を増やす工夫 児童が理解していない語句は、意味を確認することが大切です。



長い文章だと、内容が分からなくなってしまうことがあるよ。どうしたら、内容を正しく読めるかな。

文章以前に言葉の意味が分からないよ。「退化」って何？



「退」の字は「しりぞく」の意味だから…



「退化」「進化」とあるから、関係する言葉かな。

辞書を引いて確認しよう！

② 文の構成に関する理解

文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて読むことが大切です。



言葉の意味を確認したら、内容がつながってきたよ。関連した言葉を考えて読もう。

段落の初めは、「つなぎ言葉」が使われることが多いね。着目して読んでみよう！



③ 文や文章のつながりに関する理解

要約を通し、段落相互の関係を把握することが大切です。



文章全体を読むのは難しいけれど、段落で区切って読むと読みやすいね。

言葉の意味がつながると、段落ごとの意味や段落同士のつながりも分かりやすいね。



小中連携の視点

中学校では、説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告する学習活動を行います。小学校のうちに、段落相互の関係に着目した読み方や、文章の全体像を捉える読み方を身に付けることが大切です。

読んで分かったことを伝え合いましょう。



④ 哺乳類は歯で噛みちぎり、咀嚼して飲み込みます。鳥類は口がクチバシに退化したために噛まず、エサをそのまま飲み込むことが多くなりました。つまり、味を感じることもなく、噛み砕かずに飲み込んでしまう。これでは味覚があってもあまり意味がないということと、その部分が退化したと考えられています。

⑤ 実際、泳ぎながら魚やイカを丸飲みしているペンギンは、味覚も少なく、酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告もありました。人間が感じる味覚には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味、の5種類がありますが、ペンギンは甘味など、3つの味覚を退化させ、失ってしまったようです。

⑥ 地上暮らしのハトやワトリにも、数十種類の味覚がないことがわかっています。それでも問題が生じないのは、多くの鳥が、「実が赤く熟せば食べられる」「緑のままだとまだ固い。茶色になったら腐った証拠」など、食べられるかどうかの判断を、味ではなく、目で見て行っているからです。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

デジタル教科書を用い、全文を1枚に収めて児童へ配信する。

キーワードに印をつけたり、関連する段落同士を線でつないだりできる。



線を引いたり四角で囲んだり、すぐできる。線を引き直すのも簡単。

ページをめくらずに文章全体を見られて、離れた段落同士の関係も考えやすい。



文章全体の構造も分かりやすくなる。

○ 調査問題

<解答らん>

- 「～は」「～が」に当たる意味の漢字が上に来る組み合わせ
- 「～を」「～に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ
- 上の漢字が下の漢字をくわしくする関係の組み合わせ
- 似た意味を持つ漢字の組み合わせ

得点

4
次の熟語の漢字の組み合わせを、あとの解答らんの
中から一つ選びましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 熟語の漢字の組み合わせの説明として適切なものを選択する

【出題の趣旨】 熟語の構成を理解する

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 「～を」「～ に」に当たる 意味の漢字 が下に来る 組み合わせ	2 上の漢字が 下の漢字を くわしくす る関係の組 み合わせ	3 「～は」「～ が」に当た る意味の漢 字が上に来 る組み合わ せ	4 似た意味を 持つ漢字の 組み合わせ	9 その他の 解答	0 無解答
反応率	23.6%	58.1%	9.6%	8.3%	0%	0.3%

- 正答率は23.6%であった。
- 最も多い誤答は、「上の漢字が下の漢字をくわしくする関係の組み合わせ」と解答していることであった。理由としては、「得る」を動詞として捉えられていないこと、また、「得(え)た点」「得(とく)した点」と考える児童が多かったことが予想される。
- 「熟語の成り立ち」は、4年生・6年生で扱う内容である。5年生でも学習や生活と関連付けて取り上げ、繰り返し学ぶことで定着していくものと考えられる。また、学習した後に、練習問題を解くという指導になりがちであるため、子供たちが主体的・対話的に学ぶ中で、理解し定着していく指導の工夫が必要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R3 復習シート R6 復習シート

【学年・単元】 小学校6年生 言葉

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/images/fukusyuusi-to-kokugo.html>

○ 指導上のポイント

児童が発見する喜びを味わい、「熟語の成り立ち」を理解することにつなげる指導

【既習の熟語から共通点を見つけ出す学習】

近古最山③
所都多頂

増売高上①
減買低下

開見帰読④
店物国書

行身願救②
進体望助

これらの熟語は、ある共通点で分けられています。どんな共通点があるでしょう。話し合ってみましょう。

①は、「上と下」「高いと低い」「売ると買う」「増えると減る」

訓読みにすると、反対の意味の組み合わせになっているね。

②は、「救う、助ける」「願う、望む」「み、からだ」「行く、進む」

訓読みにすると、似ている意味の組み合わせになっていることが分かるね。

③は、「山の頂」「最も多い」「古い都」「近い所」

訓読みで文を作ると、上の漢字が下の漢字の様子をくわしくしていることが分かるよ。

④は、「読書は、書を読むこと」「帰国は、国に帰ること」「見物は、物を見ること」「開店は、店を開くこと」

熟語の意味が分かると、下の漢字が「～を」や「～に」になっていることが分かるよ。

「訓読みにしてみること」「意味を考えてみる」ことが、どのような組み合わせになっているのか判断する手がかりになりますね。

【既習の熟語から問題を作る学習】

漢字ドリルや教科書、身の回りから二字熟語を探して、班で熟語の成り立ちクイズを作りましょう。

【例】

「木刀」「無色」「流星」「竹林」「同時」「人力」「深海」「伝言」「加入」「消失」「周辺」「勝敗」「強弱」「老木」「海底」「開票」「着陸」「得点」「貯金」「洗顔」など

訓読みができても、漢字の意味が分からないと、どの組み合わせが分からない熟語もあるね。意味や用例も一緒に調べていこう。

「得点」は、「得た点」かな？「点を得る」かな？

「貯金」は、「貯めた金」かな？「金を貯める」かな？

どちらにも当てはまるときには、「～を」「～に」の文章にすることができるかどうか考えましょう。それができれば、『下の漢字が「～を」「～に」になっている熟語』になります。

熟語の成り立ちの共通点を話し合わせたり、クイズ作りを通して熟語に対する意欲を高めたりすることで、熟語を構成の視点から捉え、理解を深めることができます。

「語句と語句との関係」を理解することを通して、中学校で学ぶ「類義語、対義語、同音異義語、多義的な意味を表す語句など」についての理解が深まります。それにより、語感が磨かれ、語彙を豊かにすることが期待されます。

小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

4年
★★★★★ 言葉の宝箱 ★★★★★

言葉をたくさん知ることはとても大切なことです。その言葉の意味をしっかりと理解できると、その場、その時に合った正しい言葉を選んで、伝えたいことをしっかりと伝えることができます。この力は、いくつになっても使えます。小学生のうちから、たくさん言葉を知るために、気になる言葉を宝箱にためていきましょう。

○つなぐ言葉
○物や事や数字言葉
○高学年や大人が使う言葉
○美しさを表す言葉
○動植物

衣服	右折	登山	消火	岩石	血管	明暗
()に入れます	山を登る	火を消す	岩と石	明るい暗い		
③	④	④	①	③	②	

児童が話し合いながら作成した熟語の成り立ちクイズ

5年
熟語の成り立ちクイズ

第1問 強敵

第2問 養蚕

第3問 苦楽

言葉（熟語を含む）を集める場所を作成し、見つけた言葉を自分のタイミングでいつでも書き込むことができる環境を整える。言葉が増えていくことが目に見えて分かると意欲が向上する。これを積み上げていくことが熟語の成り立ちの定着、語彙の豊かさにつながる。

↑イラストがヒントになっており、視覚的にも学ぶことができる。

○ 調査問題

<解答らん>

主語

11 次の文の——線部に対する主語を抜き出して入力しなさい。
昨日、母はその店で、ケーキやプリンなどのあま
いものを妹に買った。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】文の主語を抜き出す

【出題の趣旨】文の構成を理解する

○ 誤答分析

解答類型	①正答 「母は」と解答	2 「妹に」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	37.4%	8.4%	52.8%	1.4%

- 正答率は37.4%であった。
- 主な誤答は、「妹に」や「あまいものを」であった。理由としては、「買った」の修飾語を選択している解答が多いことから、主語（何が・誰が）と述語（どうした・どんなだ・何だ）の関係を捉えることができていないことが考えられる。
- 主語を捉える際、「～は」や「～が」、「～も」などの助詞だけで判断するのではなく、文章全体の様子をイメージした上で、文の構成（主語・述語・修飾語）について理解できるようにすることが大切である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R1 復習シート 【学年・単元】中学校1年生 言語事項 2

【参考 URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/h31c1koku-gengo-q.pdf>

○ 指導上のポイント

具体的な場面のイメージから主語・述語・修飾語の関係に気付き、理解を深める指導

(1) イメージして捉えることで主語と述語の関係に気付く学習

・物語のあらすじを紹介する活動

(例) 紙芝居で表現する児童

(台本) タクヤくんはサッカー好きの男の子で、
毎朝、弟のシンジくんとグラウンドで練習し、
いつかプロの選手になることを夢見ている。



主语的、对等的で
深い学びの視点



私は紙芝居で紹介しようと思うんだけど、どうかな。

あれ、プロの選手になりたいのは誰なの？

主人公をはっきりさせるために、短い文にしてみたらどうかな？

- ① タクヤくんは、サッカーが好きな男の子です。
- ② タクヤくんは、毎朝、弟のシンジくんとグラウンドで練習しています。
- ③ タクヤくんは、いつかプロの選手になることを夢見ています。



短い文3つで分けてみると、全て主語はタクヤくんだ。こうすると、主人公はタクヤくんで、プロの選手になりたいのもタクヤくんだとわかりやすくなるね。

(2) 主語・述語と修飾語の関係に気付く学習

左の絵を、一文で説明しましょう。

青い服を着た男の子が釣りました。



今日、男の子が枝でザリガニを釣りました。

二人の文章は、同じ主語と述語が使われていますね。
主語(何が)・述語(どんなだ)以外の言葉を修飾語といいます。修飾語には、どんな特徴があるのでしょうか。



修飾語には、主語と述語を詳しくしている働きがあるよ。

修飾語は主語や述語と違って、一つの文に何個もあるね。



○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



タクヤくんは、いつかプロの選手になることを夢見ています。



(1)においては、表現の方法の一つにプレゼンテーションソフトの活用が考えられる。アニメーションをつけて動きを加えると、主語と述語の関係がより捉えやすい。



(2)においては、児童が思いついた修飾語をホワイトボードアプリ等で共有し、被修飾語別に分類・整理することで、修飾・被修飾の関係の理解がより深まる。

○ 調査問題

23 A中学校の生徒会では、1週間前に行われた球技大会の反省会をしています。
(2) (1) のアンケート結果を受けて、生徒会では対策を考えることになりました。生徒会の話し合いの様子の動画を最後まで見て、あとの問いに答えなさい。

問い 話し合いの様子の動画にある空欄アとイについて、あとの条件1、条件2にしたがい、発言内容を考えて解答しなさい。

- 条件1 アには、生徒の意見のうち、課題①を解決するために参考に行けるものを全て選ぶこと。
条件2 イには課題の解決策を、生徒の意見をふまえて1つ考え、30字～50字で入力すること。



○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】 集めた情報を整理し、適切にまとめる。
- 【出題の趣旨】 比較や分類など、情報の整理の仕方について記述する。

○ 誤答分析

- (正答の条件) ① 解答欄アで B・C・E をすべて選択している。
② 解答欄イに 30 字以上 50 字以内で解答している。
③ 解答欄イに B・C・E のいずれかの課題の解決策を書いている。

解答類型	① 正答 正答の条件①～③を満 たしている	2 正答の条件②を満 たしていない	3 正答の条件③を満 たしていない	4 正答の条件①を満 たしていない	9 その他の 解答	0 無解答
反応率	17.3%	0.3%	7.1%	20.8%	52.1%	2.3%

- 正答率は17.3%であった。
- 主な誤答は、課題の解決策は提案できているが、参考にするべき意見すべてを選択できていない解答であった。理由としては、問われている内容と選択肢の内容を照らし合わせることなく、自分が提案する解決策に関連する課題のみを選択してしまっていたことが考えられる。
- 目的に沿った話し合いをすることや必要な情報を整理しながら話し合いを進めることなど、学級活動や各教科での話し合いの場でも生かせるよう指導することが重要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R1 復習シート 【学年・単元】 中学校1年生 話すこと・聞くこと
【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuusi-to-chukokugo.html>

○ 指導上のポイント

目的に沿って、集めた情報を整理しながら話し合いをするための指導

〈学習目標〉 話題や展開をとらえながら話し合おう

何のために話し合っているか、話し合いがどこに向かっているかを常に意識し、意見を整理しながら話し合しましょう。



主目的、対話的で深い学びの視点



来月、小学校6年生との交流会が行われます。中学校の楽しさを小学生に知ってもらうためには、何をすればよいか話し合しましょう。



先日、6年生に回答してもらった中学校についてのアンケート結果によると、テストについて不安に思っている人が8割と多いことがわかります。入学前に少しでも不安を取り除いてあげることが必要だと思うので、テストについての説明とアドバイスをするのはどうですか。



不安を取り除くことも大切だと思いますが、入学を楽しみだと思ってもらうことの方が大切だと思います。学校行事や部活動を楽しみにしている人がそれぞれ9割を超えています。どちらも私たちの学校が盛んに取り組んでいることなので、自信を持って紹介できると思います。

中学校の楽しさを知ってもらうという目的からそれないように、どうすれば中学校の楽しさを小学生に知ってもらえそうか、考えてみましょう。



6年生が楽しみだと思っていることを紹介すべきだと思います。学校全体で力を入れている合唱を披露するのはどうでしょうか。中学校の合唱のレベルの高さだけでなく、学校行事の一つである合唱祭についても知ってもらえると思います。



学校の特色を紹介するのは賛成です。ですが、合唱をする機会は多いとは言えません。私は、合唱と同じように力を入れていて、みんなが毎日活動することになる部活動の紹介をすればよいと思います。どんな部活動があるか、気になっている小学生は多いと思うからです。各部から部の目標や活動内容について2分程度で紹介をしてもらうのはどうですか。



私も部活動について紹介するのがいいと思います。ただ、話を聞いているだけでは、楽しさは伝わらないのではないかと思います。楽しさを知ってもらうためには、私たちが実演をしたり、小学生が体験できる機会を設けたりするなどの工夫が必要だと考えます。



今出た意見なら、小学生に中学校の楽しさをより詳しく伝えることができそうですね。

小中連携の視点

指導事項の系統性（学習指導要領解説 国語編 付録4 教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと）を把握し、自分の意見と比較しながら聞き、相手の意見を受けて発言することや、意見を整理しながら話を進め、話題が逸れたときには元の話に戻すことなどを意図的に指導することで、話題や展開を捉えた効果的な話し合いが期待できます。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

話し合いの様子を動画で記録し、振り返りに活用する。

- ・話し合いの目的や話題に沿った発言ができているか
- ・それぞれの意見の共通点や相違点に着目し、意見を整理して進められているか
- ・複数の意見を結び付けて意見をまとめることができているか

等の視点を提示し、話し合いの様子を見返しながら良い点や改善点を見つける。



○ 調査問題

15 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この話は、侍から逃げて出家しようとした主人公が、せつかくつけてもらった「夕春」という名を描いて、わざわざ滑稽な名前に変えてしまった笑い話である。

「今は男もならず」とて、心もすすまぬ道心を「おこしければ、和尚すなはち髪を剃りて、戒名を夕春とつけられたり。兵太郎心に思ひやう、この戒名の訓み声のきたなさま」とて、和尚にまありて、「とかく此戒名をかへて給はれ」といふ。和尚のたまはく、「春宵一刻値千金」といふ詩の心によりて付けたる名なり。夕春、ゆふべの春と訓む。これ、まことにやさしき名なり」と仰せらるるに、「いや、それがし訓みてみれば、この外きたなく、をかしよう訓め待べり」と申す。「さて何と訓みたるぞ」とのたまへば、「夕春は、Aと訓む」と申す。「それはいかなる故ぞ」と問はるれば、「七夕の夕の字、春日の春の字なり。とかく此名しかるべからず」とて、みづから浮世坊とぞ付きにける。

注1 春宵一刻値千金：春の夜の一刻は千金に値するほどすばらしい、という意。中国の詩人、蘇軾の『春夜』という詩による。

注2 浮世坊：俗っぽい僧侶の意。

(2) 「夕春は、Aと訓む」とありますが、兵太郎は和尚にもらった戒名を、何と読んだのでしょうか。次の□に入る言葉をひらがなで入力しなさい。

兵太郎は、「夕春」という名前を□と読んだ。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】古文の内容を読み取る。
【出題の趣旨】古文の内容を読み取る。

○ 誤答分析

解答類型	①正答 「ばたかす」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	41.3%	53.7%	5.0%

- 正答率は41.3%であった。「七夕のばたの字、春日のかすの字」から、「夕春」の読み方を読み取り、解答するものである。
- 誤答としては「ゆうはる」「ゆふべのはる」が多く、本文に書いてある読み方をそのまま書き抜いたと考えられる。リード文には「わざわざ滑稽な名前に変えてしまったという笑い話」とあるが、そこに気づけなかったり、本文を最後まで読まずに、解答したりしたことが要因だと考えられる。
- 授業においては、語句の意味を確認したり、古文を現代語に訳したりするだけでなく、話のオチやおもしろさに気づかせ、現代と変わらない人間の生き様や考え方にも触れさせることが重要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R2復習シート 【学年・単元】中学校3年生・言語事項
【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/r2c3koku-gengo-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

話の面白さに気付き、兼好法師のものの見方や考え方から、今後の実生活において教訓となる考えをもつことについての指導

【目標】 古文の教訓を理解し、実生活に生かそう。



この話のおもしろさはどこにあるだろう？

私は①のところ注目したよ。「石清水を拝む」という本来の目的を果たしてないのに、本人はそれに気づいていないのが、この法師の性格を表しているようでおもしろいな。



法師の失敗はどうすれば防げたのかな？

②のところ、気になったなら聞けばよかったのに…。



この話の教訓を、自分たちの生活に生かしてみよう。

1人で行動して、思い込みから失敗したことがあるよ。

何か始めるときは、詳しい人に聞くのがいいね！



【生徒の興味・関心を広げる】

教科書以外の章段や、作品紹介、調べ学習などで生徒の興味を深める。

- 『宇治拾遺物語』
- 『今昔物語』
- 『十訓抄』
- 『方丈記』

『徒然草』 兼好法師
仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、①かはかりと心得て帰りにけり。
さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、②ゆがしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。



主体的、対話的で深い学びの視点。

古文の内容を、今を生きる私たちに置き換えて考え、身近なものとして捉えることで、生徒が古典の世界に親しみ、「生きて働く知識及び技能の習得」につなげます。

また、交流を通して古典に表れたものの見方や考え方に触れ、思考を深めることが重要です。



小中連携の視点

暗唱や読み聞かせなどで古典に触れている生徒も多くいます。既存の知識を確認したり、継続して暗唱に取り組んだり、古典の世界に気軽に親しめるような機会を増やします。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

教科書以外の章段から、今の人生に生きる教訓を紹介しよう

- 1 『徒然草』の他の章段を調べる。
- 2 教訓を押さえ、友達に紹介したい章段を決める。
- 3 分かりやすくスライド等にまとめ、紹介文を考える。
- 4 グループやクラスで発表する。
- 5 友人の発表を聞き、現代との共通点や相違点に気付き、日常生活に生かす。

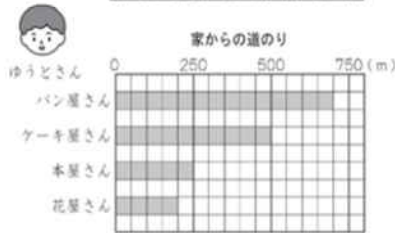
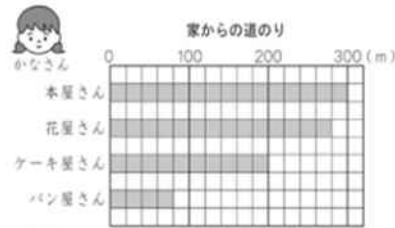


○ 調査問題

9 次の問題に答えましょう。
 (2) かなさんとゆうとさんは、それぞれの家からいろいろなお店までの道のりを調べて、棒グラフに表しました。2つのグラフをくらべて、どんなことがいえるか考えます。

かなさんの家からケーキ屋さんまでの道のりと、ゆうとさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは、同じです。

この考えは正しいですか、正しくないですか。次の解答らんの中からえらびましょう。また、そう考えたわけを、言葉や数を使って入力しましょう。



○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】目盛りのつけ方が異なる2つの棒グラフから、資料の特徴を読み取る。
- 【出題の趣旨】目盛りのつけ方が異なる2つの棒グラフを比較し、数量間の関係について考えることができる。

○ 誤答分析

解答 類型	1 ①②③ を満たす	2 ②③ を満たす	3 ①② を満たす	4 ①③ を満たす	5 ①のみ	6 ②のみ	7 ③のみ	9 左記以外	0 無解答
反応率	17.2%	0.2%	0.9%	1.8%	54.3%	0.6%	1.8%	14.1%	9.1%

- (正答の条件) ①「正しくない」を選択している。
 ②「かなさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは200m」であることを説明している。
 ③「ゆうとさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは500m」であることを説明している。

- 正答率は17.2%であった。
- 主な誤答は「正しくない」を選択しているが、理由を正しく記述できていないもので54.3%であった。一目盛りの大きさが違うグラフはそれぞれ正しく読み取ることはできているが、グラフの値を比べてその違いを述べる際に、一目盛りの大きさに着目できていないと考えられる。
- 他には「正しい」を選択している児童もあり、一目盛りの大きさを正しく読み取れていなかったり、全体の量を読み取れていなかったりすることが原因と考えられる。


○ 復習シートとの関連


【出典】R6 復習シート 【学年・単元】小学校4年生 データの活用
 【参考 URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r6s4sanq.pdf>


○ 指導上のポイント

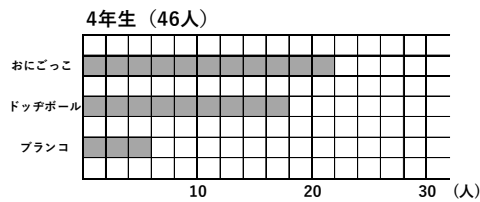
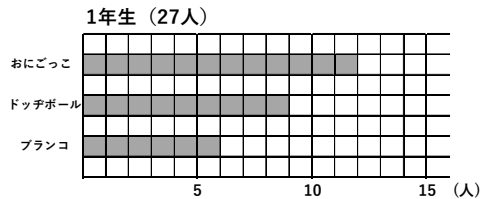
目盛りのつけ方が違う2つのグラフを比べて数量関係をとらえる指導

問題 次のグラフは1年生（27人）と4年生（46人）で好きな遊びを調べて、人数を表したグラフです。次の3人の言っていることは正しいですか。正しくないですか。理由も説明しましょう。


①  1年生、4年生ともおにごっこが好きな人がいちばん多いよ。


②  1年生と4年生では、ドッチボールが好きな人の数はどちらの学年も同じだね。


③  1年生の方が、ブランコが好きな人の数が多いよ。





《2つの棒グラフを見比べながら、話し合う活動》


 : ①②③のうち、正しい意見はどれかな。


 : 1年生も4年生もほかの遊びと比べて棒グラフが一番長いから①は正しいです。


 : ②は棒の長さが同じだから、人数も同じと言えるかな？


 : 目盛りの大きさが違います。1目盛り1人と2人で違います。

 : 1年生は9人だけど、4年生は18人だから正しくないと思います。

 : ③はどうか。

 : 棒の長さは違うけど、1年生も4年生も6人だから同じ人数で、③は正しくないです。

 : ①は棒の長さで比べられるのに、②③では棒の長さで比べられないのはどうしてだろう。

 : 1目盛りの大きさがちがうからです。上のグラフでは1目盛りは1人だけど下のグラフは2人になっています。



着目すべき点をはっきりさせ、理由を述べたくなるような発問を工夫する。（言語活動の充実）



3年の棒グラフの学習は、4年での折れ線グラフ、5年での割合のグラフ、6年でのヒストグラムを用いた「データの整理」の学習へとつながっていく。中学校でも取り扱う内容であるので、データ整理の基礎基本としてしっかり定着させておきたい。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



デジタル教科書を大型画面に映し、グラフを指し示しながら説明する活動をすることで、図を活用して自分の言葉で説明する力を高める。

○ 調査問題

1 次の問題に答えましょう。

(4) $3 + 5 \times (6 - 2)$ を計算しましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 () を使った計算をする。

【出題の趣旨】 四則の混合した式や () を用いた式について正しく計算できる。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 23と解答	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	37.8%	60.9%	1.3%

○ 正答率は37.8%であった。

○ 主な誤答は、32であった。理由としては、 $3 + 5$ と $(6 - 2)$ を先に計算し、 $8 \times 4 = 32$ と計算したことが考えられる。

○ 計算の順序についてのきまりが十分に理解できていないことや、途中式を丁寧に書かなかったことが、加法を先に計算してしまった原因として考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】R5 復習シート

【学年・単元】小学校5年生 数と計算

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r6s5sanq.pdf>

○ 指導上のポイント

四則演算のきまりを理解し、丁寧に計算を進める力を身につける指導

- 計算の順序を確認する。
 - ・左から順に計算する。
 - ・() のある式は、() の中を先に計算する。
 - ・×と÷は、+と-より先に計算する。



- 途中式を書き、丁寧に計算を進める。

【例】

$$\begin{array}{l}
 7 - (8 - 2 \times 3) = 7 - (8 - 6) \quad \leftarrow \text{①のみを計算} \\
 = 7 - 2 \quad \leftarrow \text{②のみを計算} \\
 = 5 \quad \leftarrow \text{③のみを計算}
 \end{array}$$

「一つの行で、一つの計算。」と徹底すると、間違いが起りにくいですね。

- 間違いを見つけ、どんな間違いなのかを説明する活動を取り入れる。

【誤答例】 $(28 - 7 \times 2) \div 7 = (21 \times 2) \div 7$
 $= 42 \div 7$
 $= 6$



主体的、対話的で深い学びの視点

上の計算は正しいでしょうか？



答えは6と出たけど…。 $28 - 7$ を先に計算してよいのかな？

この考え方は、間違っているね。 $28 - 7$ を先に計算しているけど、ひき算よりもかけ算を先に計算するきまりなので、 7×2 を先に計算しなければ、正しい答えにならないね。



- 中学校の文字の計算についての学習との系統性をふまえて指導する。



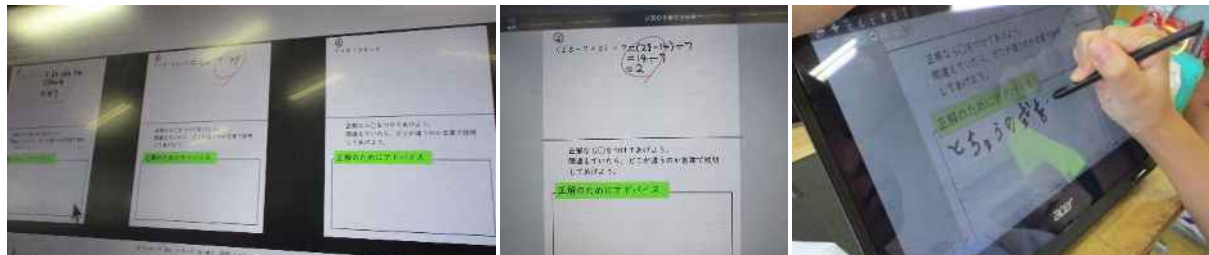
小中連携の視点

- ・ $a + b$ たし算の表し方 ・ $a - b$ 引き算の表し方
- ・ ab かけ算の表し方 ・ $\frac{b}{a}$ わり算の表し方

一つの項として考えるため、演算記号を使わない。
 → 先に計算することにつながる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- ・ICT端末に書き込み、大型テレビで共有することで、クラスで計算の仕方を振り返られるようにする。
- ・友達のページを開いて、児童同士で丸つけをしたり、アドバイスを書き込んだりする等の活動も設定する。



○ 調査問題

7 次の問題に答えましょう。

(3) 次の表は、3つのうさぎ小屋の面積とうさぎの数を調べたものです。

	面積 (m ²)	うさぎの数 (ひき)
A	6	4
B	12	7
C	16	12

A、B、C、3つのうさぎ小屋をこんでいる順番にならべたものを、次の解答らんの中から1つ選びましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 単位量当たりの大きさから、混んでいる順番にならべたものを選ぶ。

【出題の趣旨】 単位量当たりの大きさについて理解している。

○ 誤答分析

解答類型	1 A→C→B と解答	2 B→A→C と解答	3 正答 C→A→B と解答	4 C→B→A と解答	9 その他の 解答	0 無解答
反応率	24.6%	24.0%	29.6%	12.9%	0.0%	8.9%

○ 正答率は29.6%であった。

○ 主な誤答は、「A→C→B」と「B→A→C」であった。理由としては「A→C→B」は、面積－うさぎの数を求めて、その差の小さい順で並べたということが考えられる。また、「B→A→C」は、1 m²当たりの量か1匹当たりの量かどちらで求めたものなのかが十分に理解できずに解答していると考えられる。

○ 「C→B→A」の解答は、うさぎの数だけで比べたと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R4 復習シート 【学年・単元】 小学校6年生 変化と関係

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r4s6san-henka-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

単位量当たりの大きさの意味理解を深める指導

問題：AとBのにわとり小屋があります。それぞれ小屋の面積とその中にいるにわとりの数は、右の表のようになっています。

	面積 (㎡)	数 (羽)
A	7	10
B	6	7



AとBのにわとり小屋は、どちらが混んでいるといえますか？



① 面積と数がちがうから、面積をそろえて比べてみたらどうか？例えば、1㎡当たりのにわとりの数で比べたら、Aは、 $10 \div 7 = 1.428\dots$ だから、約1.4羽になるね。Bは、 $7 \div 6 = 1.166\dots$ だから、約1.2羽だね。Aの方が数が大きいから、Aの方が混んでるといえるね。



② 1羽当たりの面積で比べることができるね。Aは、 $7 \div 10 = 0.7$ だから、0.7㎡だね。Bは、 $6 \div 7 = 0.857\dots$ だから、約0.9㎡だね。Bの方が数が大きいから、Bの方が混んでいるといえるのかな。

③ なるほど。①と②はそう考えたんですね。でも、①と②では、混んでいる方の小屋が変わってきますね。なぜでしょうか？



④ 1㎡当たりで比べるときは、にわとりの数が多い方が混んでいるけど、1羽当たりの数で比べるときは、1羽当たりの面積で比べているんだから、数が小さい方が混んでいるってことじゃないのかな？



⑤ ④についてももう少し説明してくれる人はいますか？



⑥ ②の求め方は、面積÷数(羽)なので、1羽当たりのにわとりの面積…という意味になります。だから、0.7㎡と0.9㎡だと、0.7㎡の方が混んでいるといえます。面積をそろえて人数を比べるといったように、一方をそろえてもう一方の大きさを比べるとよいと思います。



児童のつまづきが予想される場所では立ち止まり、問い返すことが大切である。

小中連携の視点

第5学年のC変化と関係「異種の二つの量の割合(速さなど単位量当たりの大きさ)」につながっていくので、児童の理解の定着が一層図られる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



ICT端末を活用することにより、図や式を関連付ける指導がしやすくなります。また、友達の考えを一斉に確認することもでき、児童はそこからいろいろな思考を働かせます。

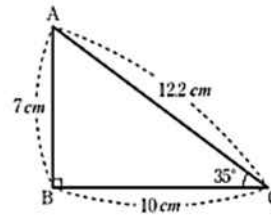
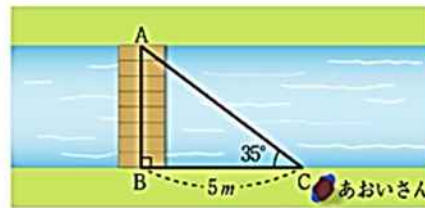


○ 調査問題

4 次の問いに答えなさい。

(3) 右上の図は、あおいさんが学校の近くにある川にかかっている橋から5mはなれたところに立って、橋の向こう岸を見ている様子を表したものです。ここから、直角三角形ABCの $\frac{1}{50}$ の縮図をかき、各辺の長さを測ったところ、右下の図のようになりました。

このとき、実際の川の幅が何mであるか求めなさい。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】縮図から求めた実際の川幅を求める。

【出題の趣旨】縮図を利用して、実際には測定しにくい長さを求めることができる。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 3.5 (m) と解答	2 14 (m) と解答	9 上記以外の解答	0 無解答
反応率	27.3%	2.3%	52.3%	18.0%

- 正答率は27.3%であった。
- 主な誤答は、「350m」もしくは「35m」であった。理由としては、 $\frac{1}{50}$ の縮図ということから、7cmを50倍し、単位計算をせずに解答した。あるいは、その単位計算の1m=100cmということを理解していなかったということが考えられる。縮図の原理を理解することや見直しをもって問題に取り組むことが不十分である。
- 無解答率の多さは、問題の情報量が多く、理解しきれなかったことが原因だと考えられる。
- 図を見たときにBCの長さが5mであることに気づくと、ABの長さが35mにはならないことに気づくことができる。日常生活の中で量感を養う必要がある。

○ 復習シートとの関連

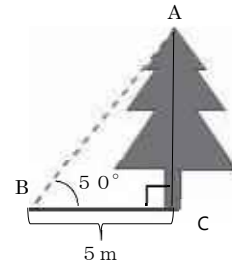
【出典】R6 復習シート 【学年・単元】中学校1年生 図形

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r6c1suuq.pdf>

○ 指導上のポイント

見通しをもって問題に取り組み、縮図を活用できるようにする指導

問題 右の図のように、木から5 mかげが伸びています。その影の先端Bから、木の上はしAまでの長さを表したものです。この木の実際の高さは何mですか。



【直接測ることができない長さを、縮図をかいて求める】

(1) 課題をとらえ、解決の見通しをもつ。



どのような手順で求めたらよいでしょうか。

高さは大体どのくらいになりそうですか。

見当をつけ、縮図をかいて求めます。



かげが5 mなので、5 mよりは高そう。



見当をつけることで、大体の長さをイメージすることができます。

かげが5 mなので、10 mよりは低そうです。

(2) 手順を確かめる。(縮尺を決める→縮図をかく→縮図上の長さをはかる→実際の長さを求める)

(3) 縮尺を決め、縮図をかき、実際の高さを求める。



縮尺はいくつにするとよいですか。

$\frac{1}{100}$ の縮図にすると、よさそうです。



拡大図や縮図の意味や性質を理解したり、正しく作図したりすることで、中学校の相似の素地になる。

どうしてですか。

計算がしやすくなるからです。



(4) それぞれの求め方を検討し、まとめる。※ICT端末の活用



実際の高さは何mになりましたか。

Aさん：6 m Bさん：6.1 m Cさん：600 m



理由は・・・

そう思った理由を近くの人と伝え合いましょう。

※見当をつけたことを想起させ、よさを実感させる。



誤答も含め、複数の意見を取り上げ、比較・検討する場面を設定する。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



自分の考えを書いたノートを撮影し、学習支援ツールを使い、考えを共有する。

○ 調査問題

3 次の問いに答えなさい。

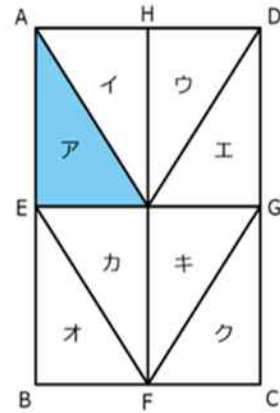
(2) 右の図で、四角形ABCDは長方形で、E、F、G、Hは、それぞれ辺AB、辺BC、辺CD、辺DAの midpointです。

アの三角形を、次の①～③のどの移動でも重ねることができない三角形を、あとの解答欄の中からすべて選びなさい。

- ① 1回の対称移動
- ② 1回の平行移動
- ③ 1回の対称移動をしたあとに1回の平行移動

〈解答欄〉

イ ウ エ オ カ キ ク



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 合同な三角形を並べた図で、一つの三角形を対称移動と平行移動、それらを組み合わせ合わせた移動で、重ならない三角形として正しいものをすべて選ぶ。

【出題の趣旨】 対称移動と平行移動について理解している。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 イとカを解答	2 イのみ解答	3 カのみ解答	4 イとウ以外	5 カとイ以外	9 上記以外	0 無解答
反応率	7.6%	0.8%	1.0%	8.1%	1.2%	70.0%	1.3%

○ 正答率は7.6%であった。

○ 主な誤答は、解答類型9の70.0%であった。

理由としては、アの三角形を直線HFに対して対称移動させることができるが、直線EGに対して対称移動をさせることができていないということが考えられる。なお、70.0%の誤答の中には、イ、カ、ウ、キの4つを選んだ解答は、32.7%であった。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R3 復習シート 【学年・単元】 中学校1年生 図形

【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r3c1suu-zukei-q.pdf>

○ 指導上のポイント

数学的な見方・考え方を働かせる指導

(平行移動、対称移動、回転移動の授業が終わった後の授業を想定しています。)

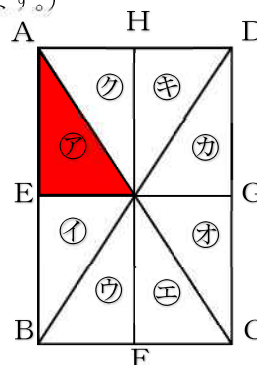
※言葉を変えれば図形の移動の導入でも実施可能。

問題 次の図で四角形ABCDは長方形です。

三角形⑦を、次の(1)～(3)のどの移動でも重ねることができない三角形を答えなさい。

- (1) 1回の平行移動。
- (2) 1回の対称移動。
- (3) 1回の対称移動をしたあとに1回の平行移動。

解答 ⑦⑧



◆これから取り組む問題について、生徒がどの程度の知識を持っているかを確認する。



平行移動とはどんな移動ですか。



一定の方向に、一定の距離だけ動かす移動です。



対称移動とはどんな移動ですか。



ある直線を折り目として折り返す移動です。折り目を対称の軸といいます。



対称の軸を探すにあたってポイントはなんだと思いますか。



縦の軸だけでなく、横や斜めにも対称の軸があるということです。

◆今回の(3)のような問題に限らず、日々の授業の中で「うまくいく場合」と「うまくいかない場合」を考えさせる意図的な発問をしていくことが生徒の思考力や判断力を高める。



重ならない場所を考えるときにはどのような考え方が必要ですか。



うまく重なるものをすべて考えたり、見当をつけて移動させたりすることです。



なぜ重ならないと思いますか。



算数では「線対称な図形」「点対称な図形」等を学習している。学びの系統性を意識した授業展開や発問が、生徒の興味や関心を高め、主体的に学びに向かう姿勢が生まれる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

学習支援ソフト (GeoGebra) 図形の移動 (麻の葉)

【単元の導入】

- ・視覚的な理解促進を図るとともに、自由に操作させる時間を確保することで、学習意欲を高める。

【単元のまとめ】

- ・既習の学習 (移動) を確認する。



○ 調査問題

6 みさきさんは、図1のように、横に囲んだ3つのカレンダーの数について、次のような予想をし、この予想が正しいことを下のように説明しました。

みさきさんの予想

図1で、横に囲んだ3つの数の和は、まん中の数の3倍になっている。このことは、横に並んだほかの3つの数でも成り立つ。

図1 カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

みさきさんの説明

まん中の数を n とすると、横に並んだ3つの数は、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ と表される。だから、その和は、 $(n-1)+n+(n+1)=3n$
 $3 \times$ (まん中の数) となるので、横に並んだ3つの数の和は、まん中の数の3倍になる。

一方、けんたさんは、図2のように、十字に囲んだ5つのカレンダーの数について、次のような予想をし、この予想が正しいことを下のように説明しました。

けんたさんの予想

図2で、十字に囲んだ5つの数の和は、まん中の数の5倍になっている。このことは、十字に並んだほかの5つの数でも成り立つ。

けんたさんの説明

まん中の数を n とすると、十字に並んだ5つの数は、

けんたさんの説明

けんたさんの予想の中心□にあてはまる言葉の初め部分の中から1つ選り、みさきさんの説明を参考にして、けんたさんの説明を完成させなさい。

(仮定語) 3倍 5倍

けんたさんの説明

※他と異なれば、4は「四」で入力してもよいし、mは「いぼりめ」と入力してもよい。
 ※分数は「1/2」や「五分の二」と入力してもよい。

図2 カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 カレンダーの数の和について成り立つ性質を説明する。
 【出題の趣旨】 文字を用いて表現したり、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして予想が成り立つことを説明することができる。

○ 誤答分析

(正答の条件) 5倍を選択し、次の(a)、(b)の両方を記述しているもの。
 (a) 5つの数について、 $n-7$ 、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ 、 $n+7$ で表されること
 (b) 5つの数の和が、 $5n$ であること

解答 類型	① 正答 5倍を選択 (a)(b)の 両方を記 述してい る。	2 5倍を選択 (a)のみ 記述し ている。	3 5倍を選択 (b)の み記述 してい る。	4 5倍を選択 左記以外 の解答	5 5倍を選択 無解答	6 3倍を選択	9 左記以外 の解答	0 無解答
反応率	18.4%	1.8%	0.2%	27.8%	15.6%	16.0%	3.5%	16.8%

○ 正答率は 18.4% であった。
 ○ 主な誤答は 5倍を選択しているが (a) 5つの数が「 $n-7$ 、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ 、 $n+7$ 」、または (b) 5つの数の和が「 $5n$ 」以外の記述であった。理由としては、5つの数を誤って記述していることが考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R5 復習シート 【学年・単元】 中学校3年生 数と式 1 (8) レベル9
 【参考 URL】 https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r5c3sansuu_q_1suutosiki.pdf

○ 指導上のポイント

カレンダーにおける数の性質を見だし説明をさせる指導

問題 カレンダーの数をひとまとまりになるように囲んでみましょう。囲んだ数の和には、どんな性質があるでしょうか。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



まずは、3つか4つの数をひとまとまりになるように自由に囲んでみましょう。

横一直線に囲んでみようかな。



斜めに囲むのもいいか



4つの数ならどうだろう。



$6+7+8=21$ 。他のところだと...



$7+15+23=45$ 。他のところだと...



$5+6+12+13=36$ 。他のところだと...



【生徒から出た囲い方を取り上げてそれぞれの性質を見だし】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

どんな性質があるのでしょうか。



真ん中の数の3の倍数になりそう。



真ん中の数の3の倍数になりそう。



4の倍数になりそう。



その性質がいつでも成り立つことを説明しましょう。



主体的、対話的で深い学びの視点

様々な囲い方を取り上げてその性質を説明させることで、数の性質の楽しさを味わうことができる。一方で文字を使って説明する考え方が共通であることに気づくことで、統合的な考えが育まれる。

算数における九九表などを取り上げることで、数の規則性に対する興味や関心が向上し、主体的に学びに向かう姿勢が育まれる。

小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- カレンダーの数をどのように囲んだのかを、ICT 端末を使うことで、クラス全員で共有することができる。
- 共有したものから、ピックアップして全体の課題を見だしすることも可能である。
- 証明の方法も共有することで、解決までの道筋や論理的な説明の仕方について、友達の考えを参考に、自分の考えを更に深めることができる。



- デジタル教科書を用いることで、生徒は前学年までの既習内容との繋がりを適宜確認することができる。

○ 調査問題

13 (2) あなたは、自分が参加しているボランティア活動について、校内の英語ニュースで紹介する英文を書いています。【メモ】をもとに、下にある英文が完成するように、に適する英語を入力しなさい。

【メモ】

私が参加しているボランティア活動

- ◆ 場所：老人ホーム
- ◆ 活動日：毎週土曜日
- ◆ 先週はお年寄りのためにピアノを演奏したり、話をしたりした

・ Last week, for old people. I also talked with them.

<解答欄>

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】与えられた情報に基づいて、人物を説明する英語を書く

【出題の趣旨】与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くことができる

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 I played the piano	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	7.3%	81.3%	11.4%

- 正答率は7.3%である。
- 主な誤答は、play や piano など、単語のみで答えてしまい、主語・動詞・目的語に誤りが見られた。誤答の原因としては、の中に1語しか書くことができないと判断してしまったことが考えられる。また、I play the piano や play the piano など動詞の時制に誤りがあるものや、主語が欠落している誤答も多く見られた。どちらも現在形で解答している誤りが多く、【メモ】の「先週」という言葉や、英文の“Last week”から過去形の表現に繋げることができていないと考えられる。
- 無解答率は11.4%である。無解答の原因は、【メモ】のどの部分が英文に当たるのかを判断できず、諦めてしまったことだと考えられる。日々の学習の中で、メモの取り方や、文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて生徒自身が読み直して誤りを修正するなどの指導を充実させることが大切だと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6 復習シート

【学年・単元】 中学校2年 書くこと

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198941/r6c2engq.pdf>

○ 指導上のポイント

インタビュー・マッピングを活用し、情報を整理して英文を書く指導

インタビュー・マッピングとは、相手から聞いた情報等について、情報を整理し、単語や短い語句で関連付けながらメモ（マッピング）を取る活動である。身近な話題についてやり取りした相手の情報のマッピングから、英文を書くことに繋げることで、表現力を高めることができると考えられる。

- ① ペアでテーマについて2分間やり取りをしながら、マッピングに情報をまとめる。

What sport does your sister like, Kenta?

She likes basketball.

Is she a member of the basketball team?

Yes, she is.

Does she watch basketball games?

Yes, she watches them on YouTube.

- ② ①でマッピングに英語で書くことができなかった単語や表現を調べ、書き足す。

sister — バasketボール — member
like **basketball**
— YouTube で見る **watch**

バスケットボールは英語ではこう書くのか…YouTubeを「見る」は”watch”で表現することができるんだ💡

- ③ マッピングをもとに相手から聞いた情報を英文で書く。

Kenta has a sister.
She likes basketball.
She's on the basketball team.
She watches basketball games on YouTube.

- ④ 書いた英文を生徒同士で読み合い、より良い表現になるようアドバイスをし合う。

主語が She で現在形の時は watch の時は、s ではなくて es を付けるよ。

そうだった！ありがとう。

- ⑤ 代表生徒（2～3人）の内容を全体で共有する。その英文を活用し、Dictation を行うこともできる。

小中連携
の視点

小学校での書くこと目標（学習指導要領解説 外国語編 付録4参照）に書かれている土台があることを踏まえ、中学校では場面や状況から時制等を適切に判断し、正確な文を書くことができるように指導をしていく。



主体的、対話的で深い学びの視点

英語で話すことはできても、書くことができなかった単語や英文を調べて書く活動を継続することで、書くことの表現の幅を広げていくことができる。メモの取り方や正確に英文に書き直す活動を通して、自己の学習を振り返ったり、学びの変容を実感したりすることが主体的・対話的で深い学びに繋がる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



学習者用デジタル教科書を活用し、登場人物の会話文等の音声聞き取り、上記の活動に取り組むことができる。再生速度や再生回数等、各自のペースで取り組むことで、習熟度に応じた学習ができる。



学習支援ソフトを活用し、一人一台端末にインタビュー・マッピングや Dictation 等の教材を配布し、個人で活動に取り組んだ後、全体で画面共有することができる。他の生徒の取組から、好事例をフィードバックすることで、自分の取組を見直し、学びを深めることができる。



○ 調査問題

*①～⑥の各イラストが
3秒ずつ表示される

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 日常的な話題について、相手に依頼する文を作る

【出題の趣旨】 日常的な話題について、相手に依頼する表現を正確に書くことができる

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 Can you go~?	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	23.0%	58.0%	19.0%

- 本問題は上記の①～⑥のイラストが順番に画面に映し出され、④の空欄に相手に依頼する適切な表現を書くものである。各イラストは3秒ずつ表示される。
- 正答率は23.0%であった。親子の会話をもとに、空欄に入る適切な表現を答える問題である。会話の流れを理解し、相手に依頼する表現を正確に答えることが求められる。
- 主な誤答は、Do you~? や Are you~?など、疑問文にはなっているが、相手に依頼する表現を正確に書くことができていないものである。また、やり取りの内容を理解していないため、eggsなど会話中に出てきた単語を答えたり、イラストに描かれているものを答えたりする生徒がいた。
- 無解答率は19.0%であった。無解答の主な原因としては、話の内容を理解することができず、適切な表現を書くことができなかったと考えられる。日頃の言語活動において、継続したやり取りの中で適切な返答をさせたり、コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定した上で、それに応じた発話をさせたりすることが求められる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R4 復習シート 2

【学年・単元】 中学校3年 聞くこと *会話の流れを掴む

【URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198941/r4c3eigo-kiku-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

Small Talk・Interactive Teacher Talk の工夫 日常的な話題についてやり取りする力を身に付ける指導

やり取りの中で自分のことについて伝えたり、関心のあることについて質問をしたりするなど、やり取りを継続・発展させる力を身に付けさせることが大切である。そこで、Small Talk を工夫して、やり取りを継続する力を身に付けることを目指す。

★今回は、「What's your favorite place in your school?」という話題で Small Talk で行う。

接続詞 because, や when を前時に学んでいる。

授業の最初 Small Talk① 通常の Small Talk を行う。

◎授業の最後に再度同じテーマで Small Talk を行うことを伝える。



Small Talk は小学校でも行っています。
連携を意識して継続しましょう。

言語活動 コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定する。

今年から新しくやってきた ALT の先生が、私たちの町をもっと知りたいと思っている。休日に楽しめるおすすめの方法や自分が好きな場所とその理由を教えてあげよう！

★言語活動のポイント

生徒の活動（流れ）	指導の留意点や効果
① 言語活動の内容を理解する。	Small Talk の流れから導入する。
② 伝えたい内容を個人で考える。	補助プリント等を活用し支援する。
③ ペアになって一人が ALT の役になってやり取りの練習を行う。	相手を意識して練習するように指導する。
④ ALT と会話する。	参考となるやり取りを全体で共有する。

*④の後に中間指導として、文法や発音の正確さについても指導し、再度③と④を行うことで、発話の正確性を高めることができる。

授業の後半 Small Talk② 学んだ表現を活用して再チャレンジ！

◎学んだ表現を実際の会話の中で使うことができることに気づき、定着を図るとともに、主体的に運用する力を養う。また、生徒が自信を持って発話することができるようになる。

Before



I like gym.
I like basketball.

After



I like gym because I'm on the basketball team.



【学習課題の設定】事前に、本時の目標を達成した生徒の姿を想定し、そこに導く学習課題を設定する。

【活動場面の工夫】コミュニケーションを行う目的・場面・状況や、相手を意識させ、必然性のある言語活動を行う。

○ 指導上のポイントにおける ICT 端末の活用について

- ICT を活用することで、話す際に必要となる表現や情報などを得ることができる。
- 動画や画像を用いて、視覚的・聴覚的な情報を伝えることができる。「話すこと【発表】」
- 動画を録画して振り返りや自己評価ができる。動画から文字起こしをして、発話の正確さについて確認することもできる。「書くこと」



第4章

特徴的な取組の紹介

児童生徒の学力を伸ばした学校の実践を紹介します。

各学校において、本章で掲載されている児童生徒の学力の伸びを引き出した効果的な取組を、今後の取組の参考としてお役立てください。

今年度は、以下の8校の取組を紹介します。

草加市立稲荷小学校	ふじみ野市立元福小学校
上里町立神保原小学校	加須市立元和小学校
桶川市立桶川西中学校	所沢市立狭山ヶ丘中学校
深谷市立藤沢中学校	越谷市立大袋中学校



草加市立稲荷小学校の取組

1 本校の概要

本校は草加市の東部に位置し、今年度で開校 48 周年を迎えた。児童数 452 名(9月1日現在)、学級数 19 学級、教職員数 28 名の中規模校である。

本校では『自ら学び 心豊かに たくましく』を学校教育目標に掲げ、「花さく 夢さく 笑顔さく 明日への希望 いなりっ子」を合言葉に教職員が一丸となり、「児童一人ひとりを大切にする教育の推進」を学校経営方針として、主体的に学ぶ力、豊かな人間性、たくましい心身の育成を目指している。



【稲荷小児童の学力向上イメージ】

2 令和5・6年度の結果

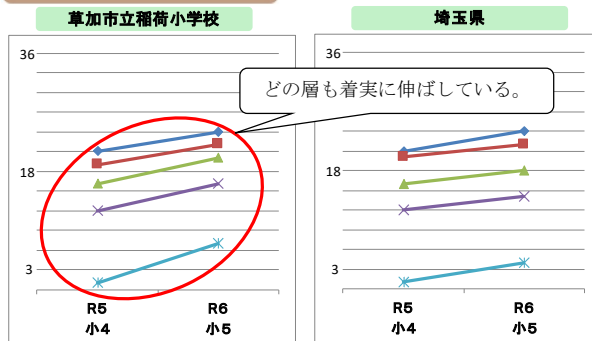
小学校4年生→小学校5年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 学習の土台づくり

朝の活動時間に基礎的・基本的な知識・技能の定着のための児童自身の課題に応じた反復学習を行った。

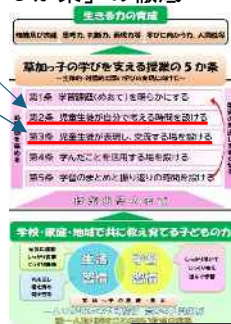


イ 授業改善：「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の徹底

草加型の探究型授業の基本プロセスの中でも「第2条 児童が自分で考える時間を設ける」及び「第3条 児童生徒が表現し、交流する場を設ける」に重点を置いた授業設計を行った。

- ICTの効果的活用 (考えの表現や交流の場面での活用)
- 学習規律の徹底
- 継続的な学び方の指導

(ノートの書き方、考えの伝え方)



ウ コバトンのびのびシートの分析活用

「児童が意識すること・実践すること」と「教師が意識すること・実践すること」の双方向からのアプローチで、学習方略と非認知能力の向上を目指した。



小学校5年生→小学校6年生の取組【算数】

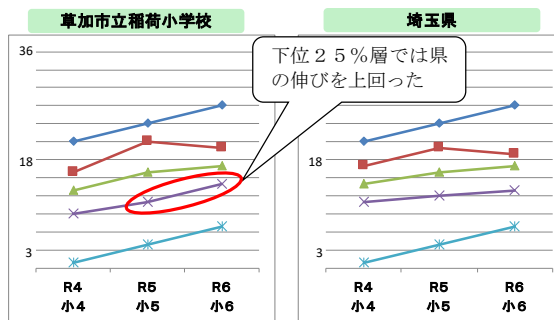
(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力レベルで小4から小5にかけて大きな伸びを見せたが、小5から小6では、伸びは見られず県と同等にとどまる

学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 指導体制の充実

単元や学習内容に応じた指導体制を工夫することできめ細やかで、児童に寄り添った指導を行った。

- ① チームティーチング
- ② 等質で分けた少人数指導
- ③ 習熟度別少人数指導
- ④ 課題に応じた個別指導



イ 稲荷寺子屋 (授業外の学習支援)

業間休み等に希望者を対象とした授業外の学習支援を行った。

- ・ これから学習する単元に関わる既習事項の復習など
- ・ 新しい単元の学習前に行うレディネステストなどをもとに、つまづきが見られる児童への支援

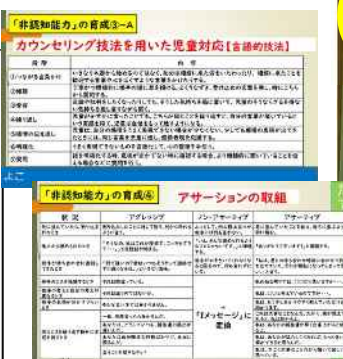
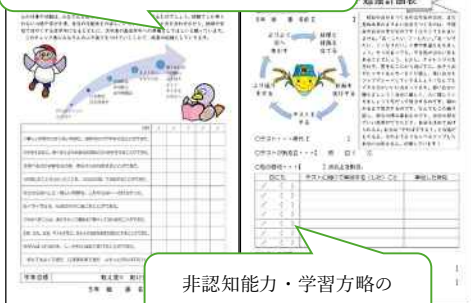


学校全体での取組

計画・実行・振り返り

「児童が意識すること・実践すること」の1つとして、学習や行事における計画・実行・振り返りに取り組んだ。目標に向けた具体的な自身の取組について計画することや振り返ることを通して一つ一つの物事に集中して取り組むことができるようになった。

プランニング方略を高めるためのテスト勉強計画表



行事を通しての成長





ふじみ野市立元福小学校の取組

1 本校の概要

本校は、今年度 50 周年を迎えた、児童数 279 名、学級数 13 の小規模校である。学校教育目標「かしこく・なかよく・たくましく」の下、今年度は「一人一人の子供たちの笑顔が輝く学校」をめざす学校像とし、どんな場面でも「笑顔」をキーワードとして活動している。授業中には、真剣な中にも子供たちや教職員に笑顔が見られ、安心感のある和やかな雰囲気が子供たちの成長につながっている。「タブレット端末の活用方法と効果的な指導方法～教員の ICT 機器等のパソコンスキルの向上～」を学校研究課題とし、学び合う活動や ICT 機器の活用等に力を入れている。



2 令和 5・6 年度の結果

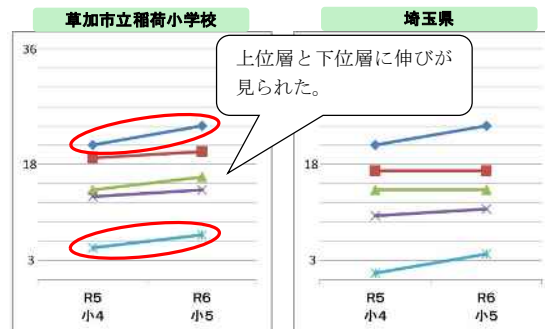
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア T・T (ティーム・ティーチング)、習熟度別学習

第 4 学年の算数の学習では、T 1 が主となり指導を行った。その際 T 2 が支援の必要な児童への支援や、練習問題を解く補助などを行った。

また、児童の実態に応じて、単元によって習熟度別学習を行った。授業を受けるコースは、児童にも希望を取り、納得したグループで学習を行った。上位層では積極的に練習問題・発展問題を解き進めていき、中位層から下位層では指導内容や実態に応じた進度で授業を展開した。上位層は、問題をたくさん解くことで大きく力が伸びた。中・下位層では、自力解決に十分な時間をかけて授業を進め、できた・わかったという実感を味わわせることができた。



イ 自己肯定感・自己効力感を伸ばす取組

教科書や問題集の問題を解く際には、途中式やメモ等を書くように指導し、全員が丸をもらえるまで見届けた。朝の活動で、これまでに学習した内容を復習する基礎算数を全校で行っている。

また、年 9 回 7 時間目 (放課後) に、支援が必要な児童を対象にした学習会も行っている。これらの取組を通し、支援が必要な児童も、できた・分かったという実感をもつことができるように指導している。年間を通して自主学習にも力を入れ、児童が考え学習してきた内容を評価し、全体に共有することで、個々が学習に取り組む意欲が向上し、学力向上につながった。

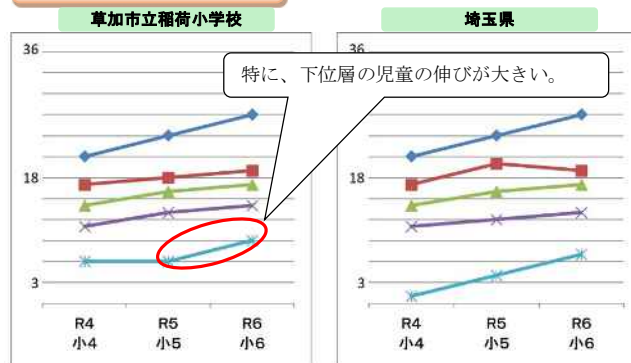
小学校5年生→小学校6年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 習熟度別少人数指導

第5学年では、習熟度別少人数指導や個別指導で補充問題に取り組ませた。習熟度別は、レディネステストの結果で児童と相談しながらチーム編成（10人以下）をした。

イ 授業の工夫

下位グループでは、次の3点について授業の工夫をした。①板書をシンプルにし、文章題などはキーワードだけをノートに記述することで、問題文からキーワードを探せる習慣を身に付けさせた。まとめは、教科書の文章を要約したり、児童に分かりやすく変換したりした。②小数点の移動や図形等は、体を使って学べる時間を取り入れた。③計算力向上のために、練習問題はみんなでやり、その後、個人で補充の問題や計算スキルなどの練習問題に多く取り組ませた。早く終わった児童は、友達へ教えることにした。これにより、理解が深まる児童も多く見られた。

ウ 家庭学習の取組

算数の学習は、その日に授業で学習した内容のものを出した。本時の学習と計算コーナー（四則演算）と文章題が入ったプリントを用意し、計算単位では、書き込み式の計算スキルを課題にした。また、下位グループは、自主学習で学習する内容を指定して取り組ませた。

学校全体での取組

(1) 学校課題研究の取組と継続

本校では、令和2年度より算数科を中心とした学校課題研究を進めた。3年間にわたる研究の中で、令和4年度には西部地区学力向上のための授業研究会における研究授業や、人間地区算数数学教育研究協議会での研究発表を実施した。研究終了後も算数科の充実に努め、学校全体で取組を継続している。令和5年度からは、学校課題研究のテーマをICTの活用に移し、ICT機器の日常的な活用を主軸に据えた研究を開始した。ICT機器を単なる目的ではなく、児童の学力向上を図るための手段として活用することを重視し、その効果的な活用方法を模索した。このような方針により、ICT機器が日常的な授業の一環として自然に取り入れられ、教員が過度な負担を感じることなく活用できる環境を整えた。その結果、教員それぞれの強みを活かした授業づくりが可能になった。

(2) 学力向上の取組

本校では、学校経営の基本方針である「よさを認め、褒めて伸ばす」を再認識し、全ての教育活動において児童を積極的に褒めて成長を促す意識をもち続けた。基本的なことを徹底する姿勢が、児童の学力向上にも寄与していると考えている。また、地域のサポーターと協働し、年に9回「学習会」を実施した。この活動では、対象を3～6年生に限定し、算数に課題を抱える児童への支援を重点的に行った。その結果、学力の向上や児童一人一人のつまづきを丁寧に支える環境を整えた。



上里町立神保原小学校の取組

1 本校の概要

本校は、埼玉県北部の農村地帯にあり、学区の南にはJR高崎線が、また学区内を国道17号線、旧中山道が通っている。また校区の北側には烏川が流れ、群馬県と接し、赤城山をはじめ上州の山並みが遠望できる。

明治19年(1886年)4月26日に上喜太小学校が忍保善臺寺を充用し開校したところから始まり、大正3年(1914年)には、神保原尋常小学校と改称し、昭和16年(1941年)に神保原国民学校、昭和22年(1947年)には6・3制の実施により神保原小学校と改称した。令和6年で開校138年を迎えた。

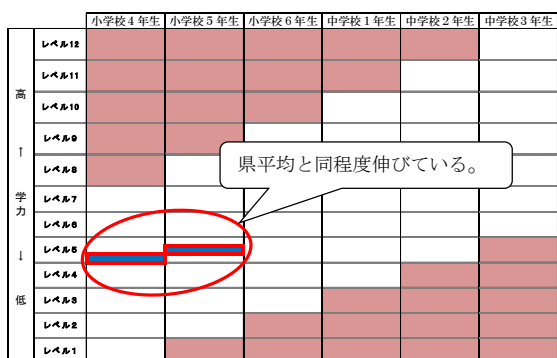


2 令和5・6年度の結果

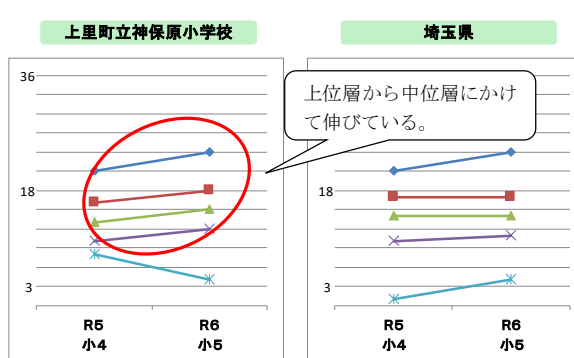
小学校4年生→小学校5年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 友達と関わりながらの課題解決

グループやペアでの学習を中心に授業を組み立てた。分からないことは友達に聞いたり、考えを説明し合ったりして、関わりの中から問題解決能力を身に付け、理解を深められるようにした。どの児童も独りにならないよう、教師は困っている児童がいたら、友達とつなぐ役目をした。

また、発展的な課題に取り組ませ、グループの友達と協力して解決することで、児童の意欲を高め、やり抜く力の育成を図った。



〈グループで学び合い〉

イ 学習方略や非認知能力に関すること(自主学習)

児童が計画を立て主体的に学習に取り組めるように、自主学習に積極的に取り組ませた。ノートに繰り返し書いたり、公式を声に出したりするなど、自分で学習内容や方法を考えさせることで知識の定着を図った。授業では、多様な考えを引き出す工夫(発問や教材の提示など)をし、考えたことを友達に自分の言葉で説明させた。

また、学級会を通して、クラス全員で遊ぶ時間を多く設け、協力して遊ぶ楽しさを味わわせ、所属感や安心感を高めさせた。この取組により、児童は学校が楽しいと感じるようになった。



〈多様な考えを引き出す工夫〉

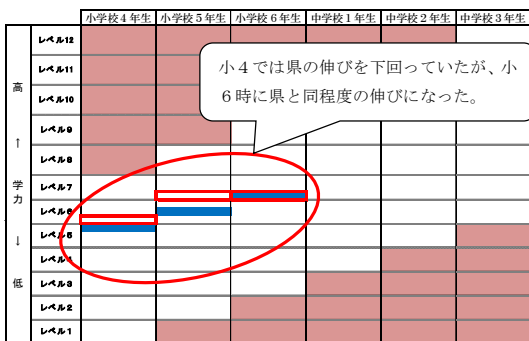


〈クラスレク〉

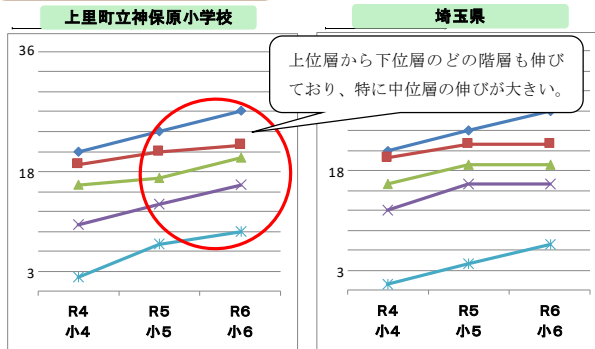
小学校5年生→小学校6年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 読む、書く、話す力を鍛える継続的な指導

毎月「暗唱チャレンジ」を行い、合格するまで繰り返し挑戦させた。また、朝学習で、短作文やコラム学習に継続的に取り組みさせ、ポイントに沿って文を構成する練習を繰り返し、書く力を伸ばした。グループやペアで話すときは、筋道を立てて話すよう指導し、日々の授業で取り組むことで、話す力が向上した。



イ 学習方略や非認知能力に関すること（一人一人を大切にした学級経営）

一人一人を大切にしたい学級経営を通して、分からないことを友達や教師に聞ける雰囲気づくりに取り組んだ。毎月、生活アンケートを取り、気になる児童には必ず聴き取りを行い、児童が安心して学校生活を送れるよう配慮した。学校生活全般を通して、友達と協力して活動する場面を多く設け、学級への所属感をもたせることができた。



〈チームで協力〉

学校全体での取組

(1) 特別活動を中心に据えた学級経営

- ・学力向上と学級経営に相関関係が見られたことから、特別活動の指導者を招聘し、学級活動(1)を全クラス公開した。合意形成の仕方や教室環境の整え方などを学級経営に生かした。
- ・全学年で、学級会ボードを統一し、学年が変わっても同じ流れで学級会が行えるようにした。話合いの議題と決まったことを書いた「議題の木」を作成し、児童用通路に掲示して、どの学年がどんな議題で話合いをしたか一目で分かるようにした。話合いを重ねることで、折り合いをつけ、相手の意見を尊重する気持ちが育ってきた。



〈学級会ボード〉



〈学級会の様子〉

(2) 学び合いを主軸とした授業を展開

- ・「きく・つなぐ・もどす」を意識した授業づくりを行った。
- ・「わからない」が言える、話を「きく」ことのできる児童の育成を目指し、分からないことを大切にするための「分からない達人」「きき方達人」カードを作成した。教室に掲示したり、児童の机に貼ったりして、意識付けを図った。
- ・ペアやグループで、発展的な課題に協力して取り組ませた。



〈「わからない達人」「きき方達人」カードの掲示〉



加須市立元和小学校の取組

1 本校の概要

本校は全校児童 290 名、学級数 14 学級の中規模校である。
 大利根地域の中央部に位置し、学区内には、文化体育館、福祉会館、保健センター、童謡のふる里図書館「ノイエ」等の公共施設が設置され、大利根地域の教育・文化の中心となっている。
 「つよく」「かしこく」「しんせつに」を学校教育目標とし、日々の教育活動を推進している。



2 令和 5・6 年度の結果

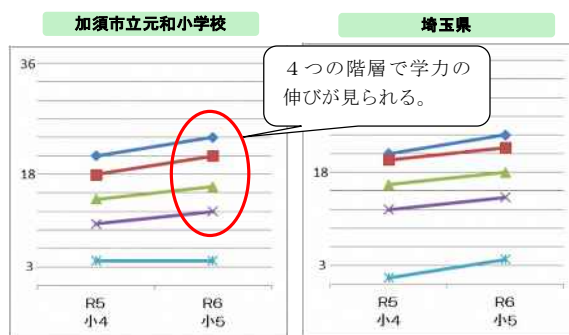
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組「アウトプットのためのインプット」

ア 主体的かつ意欲的に取り組ませる学習指導の改善

・学びに向かう教室環境づくり：知識や経験のインプットがしっかりとできるよう、単元の目標や目的や 1 単位時間の学習過程を示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。また、学習したことを教室内に掲示して、単元を通して何を学んできたのか（インプットしてきたのか）をいつでも振り返ることができるようにしている。



・インプット、アウトプットする時間の確保：教師の発問計画を徹底し、児童が教材に向かう時間、思考する時間（インプットの時間）を十分に確保する。また、個人→ペア・グループ→全体→個人というように、友達同士で思考のアウトプットをする時間や個に戻って考える時間を確保し、思考のイン・アウトのスパイラルによる学びの深化を図っている。

イ 学習方略や非認知能力に関すること

・学習に意欲的に取り組む児童の育成【やりぬく力・勤勉性】

〔反復〕授業で大切なところ、漢字、テストで間違えた問題など、定着が必要な点については、復習を徹底させてきた。（インプット）

〔メモ〕授業中大切だと思った点について、自主的にノートにメモする指導と、ノートの見届けを継続して行ってきた。（インプット、アウトプット）

〔諦めない心〕作文や日記を最後まで書く指導や、難しいと感じる問題に対し自分なりの考えや言葉を答えさせる指導を繰り返し、無解答をなくしたり、ねばり強く取り組む姿勢を育てたりしてきた。（アウトプット）



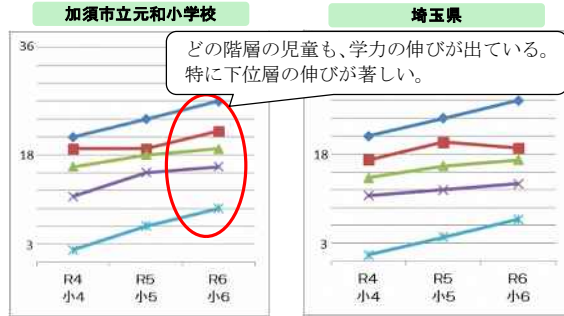
小学校5年生→小学校6年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組「アウトプットしたくなる取組」

ア 魅力的かつ必然性のあるゴールを設定した学習指導の改善

- 目的意識、相手意識を明確にした言語活動、単元ゴールの設定
『伝えたい相手や、明確な目的があるからアウトプットしたくなる』
そんな単元のゴールや、言語活動を設定した授業に取り組んできた。
～言語活動例～
「修学旅行を成功させるために、日本文化の魅力を友達に発信する」
「たんぼぼのちえブック」 「本物の獣医さんにお手紙を書こう」
「昔の遊びリーフレットづくり」 「新説！一つの花」 など



- 指導事項をおさえた言語活動、単元のゴールの設定
単に魅力的なゴールでなく、指導事項をおさえた言語活動・単元のゴールを設定した授業を考案、計画してきた。それに向かって児童が何を学ぶか、探究するかに重点を置いた授業展開をしてきた。

イ 非認知能力や学習方略に関すること

- 計画的に学習に取り組む「自学ノートの活用」【プランニング方略】
計画的な自主学习に取り組ませている。テストや学力調査、苦手克服など、何のための自主学习なのか目的と計画を持たせた上での自主学习を指導、奨励している。
- 行事への積極的な参加、運営への携わり【自己効力感】
様々な行事に際し、一人一回以上、計画や運営の役割をもたせ、自信や達成感・充実感を高めさせる取組を行ってきた。(林間学校、就学時健康診断、開校150周年記念行事、6年生を送る会、委員会活動主催の児童集会等)



自学奨励の一環「校長（こだま）賞」

学校全体での取組

(1) 一人一授業の提案

全職員が国語の研究授業を実施。授業の基本をスタンダード化し、何を学ばせるのかを重視した指導案検討会などを通して、学習指導改善に努めている。

(2) 作文指導の取組

- ステップアップ作文：業前の時間を使い、毎月全校で作文に取り組んでいる。テーマと書き方の条件を出し、児童は事実をもとにして文を作っている。
- マイニュース：音読カードの下のスペースに100字程度の短作文枠を設け、毎週1回日記を書いたり、新聞・ニュースを見て関心が高かったことについての意見を書いたりしている。



元和小 授業の基本 <国語> ～読解的文章編～	
学習の目標	読解上のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 学習の得意しさをもち、読解の難関を突破する。 めあての理解を深める。 単元の共通し難関を突破する。(単元計画) 	<ul style="list-style-type: none"> OCCTの活用。(異読物や異読例の活用) 単元的ゴールを明確に設定しておく。 読解の得意から、単元的難関を突破する。

元和小 授業の基本 <国語> ～文写的文章編～	
学習の目標	読解上のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 学習の得意しさをもち、読解の難関を突破する。 めあての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 得意しさをもち、読解の難関を突破する。 単元的ゴールを明確に設定しておく。 読解の得意から、単元的難関を突破する。 読解の得意しさをもち、読解の難関を突破する。 めあての理解を深める。 単元の共通し難関を突破する。(単元計画)



桶川市立桶川西中学校の取組

1 本校の概要

本校は生徒数488名、特別支援学級4学級を含む17学級の中規模校である。今年度、創立50周年を迎え、地域、保護者の皆様による実行委員会企画の記念式典が盛大に行われた。学校応援団活動が活発な緑豊かな学校である。

本校では、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』のある学習活動」を研究主題とし、授業改善に取り組んでいる。学力向上とともに非認知能力の育成を目指している。



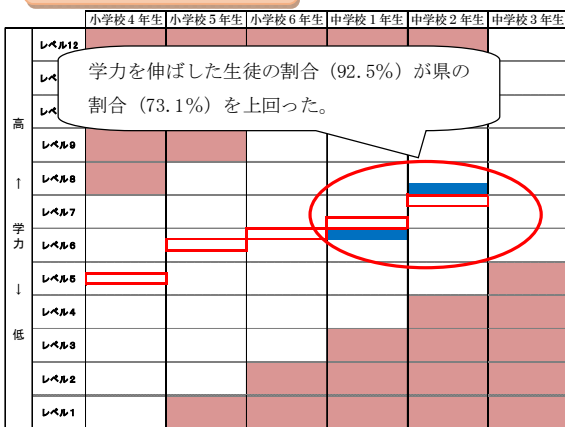
桶川西中イメージキャラクター「にしぼん」

2 令和5・6年度の結果

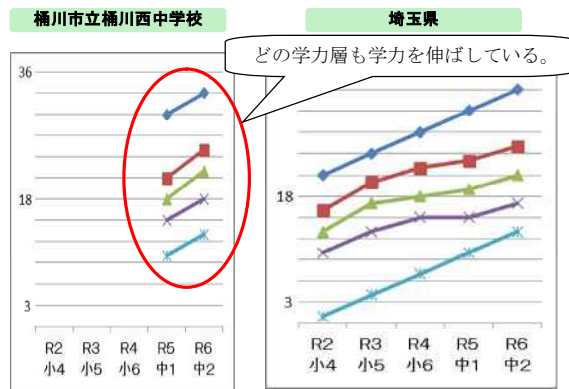
中学校1年生→中学校2年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある学習活動の充実

授業形態は基本的に4人班による。選択問題の場面において、一人一人の興味関心に応じた学習課題に取り組む。選択問題をグループ内で説明する場面や選択問題の解決プロセスを統合的に考える場面では生徒同士の学び合いを取り入れる。



事例 二等辺三角形の性質の授業

- (ア) 問1 選択問題を解決する。【個人→班活動】
- (イ) 班全員が説明できる状態である場合、選択問題以外も取り組んでよいことにする。
- (ウ) 課題1 問Aまたは問Bに取り組む。同じ問題を選択した仲間と解決策を考え、説明できるようにする。他者の考えや意見を聞き、それを踏まえた上で自分の問題解決へのアプローチ方法について班活動を通して発表する。【班活動→全体】

イ 学習方略や非認知能力に関すること

- (ア) 全学年で規律ある態度「話を聞き発表をする」項目の達成率向上を学力向上の鍵ととらえ「考え、説明し、伝え合う活動」を授業に取り入れている。
- (イ) 全学年で定期テスト後、テスト復習レポートを作成している。すべての問題に再度取り組み、生徒全員の理解を深める。Google Classroom から解説動画を見て自分のペースで復習に取り組む。



掲示板上には自由に取り組める数学プリントが用意されている。



所沢市立狭山ヶ丘中学校の取組

1 本校の概要

本校は、西武池袋線狭山ヶ丘駅を学区に含み、国道 463 号線が東西に走る交通の利便性が高い地域である。学校の西側からは、茶畑越しに秩父山地や富士山を見渡すことができる。開校 44 年目を迎え、現在、全 15 学級、全校生徒 498 名の学校である。

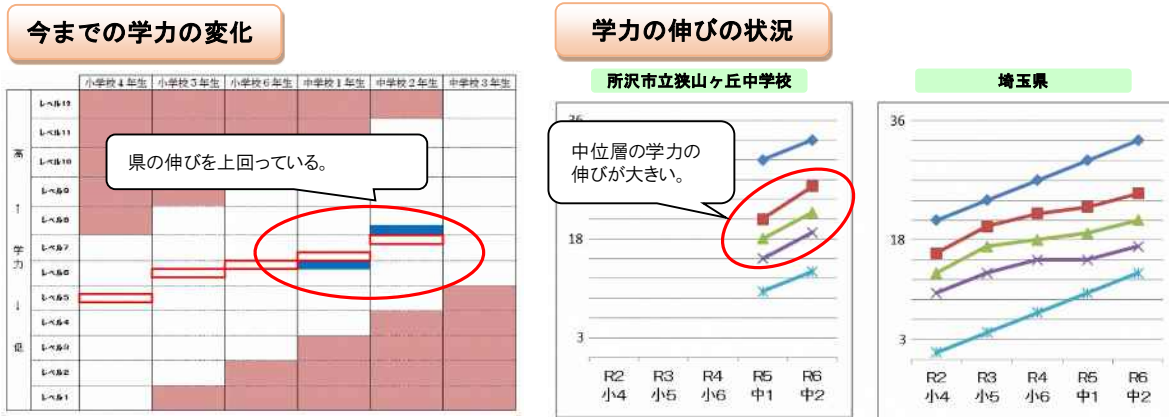


本校では、学校教育目標を「自立と共生」とし、「はじめに子どもありき」を基本理念におき、「人と人が交わり、心の交流が実感できる温かな学校」づくりを行っている。

2 令和 5・6 年度の結果

中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 市独自の学習支援員の活用について

本校では、令和 5 年度 1 学年の数学の授業では、市独自の学習支援員制度（学力向上支援講師）を活用し、週 1 時間の T2 授業を行った。学力向上支援講師は中学校数学教員の長年の経験から、特に数学を苦手としている生徒への支援を行った。T1 は授業中に中位層の生徒への支援に回る時間が確保された。2 学年では、学力向上支援講師を活用し、少人数指導を行った。

イ 生徒同士での教え合いを積極的に取り入れた取組について

基本的に数学の授業では、前時の振り返りとなるドリル学習（1 学年は音声計算）を授業の冒頭に行っている。解答は教師が示すが、解説は生徒を中心に教え合いをする時間を設定している。授業の展開部分では、本時の例題を教師が説明し、それに関する問題を生徒が個々に解き、解き終わった生徒は、即時、教師からのフィードバックを受けた後、アドバイスが必要な生徒へ手立てを教えるように取り組んでいる。授業者は、「できないことは恥ずかしいことでない。」と日頃から指導するとともに、それを揶揄しない学級を担任や学年職員がつくりあげている。



ウ 数学好きを増やす取組

令和5年度の1学年の数学では、2学期に授業開始5分を使い音声計算を行った。目で見ただけの答えを声に出すことですばやくペアで確認できるので、生徒アンケートからも「計算への苦手意識が少なくなってきた」と多数の生徒から感想があった。

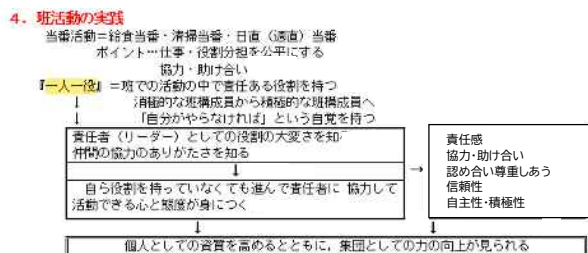
学校全体での取組

(1) 学力の伸びが小さい生徒に対して

国・社・数・理・英の教科では、事前に100問あるプリントを配布し、その中から10分程度で解けるテストを各教科で1年に1回実施している。テストの準備として、1か月程度教科担当だけでなく生徒間でも質問ができる時間を設けている。質問の時間は、部活動がない放課後や昼休みに設定しており、そこでは生徒が教師に質問するだけでなく、基礎的なことを生徒同士で教え合いを行っている。教え合いの効果として、学力の定着を図るだけでなくケアレスミスも少なくさせるメリットも検証されている。このテストは「やればできる」という成功体験を積み上げること、「分からないことをそのままにしない」という学びに向かう姿勢の育成を目的に行っている。そして、家庭で生徒が頑張っている姿を目にすることで保護者が励まし、教師が結果に対して生徒目線で一緒に一喜一憂をするなど、学力の伸びが小さい生徒の学習意欲の向上も目的としている。そういった本校の学び合いの土壌は、「人と人とが交わり、心の交流が実感できる温かな学校」づくりの一つであると捉えている。

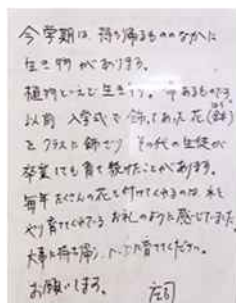
(2) 「相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができる」ようにする取組について

- ① 学校全体で取り組んでいることとして、年度当初の職員会議にて特別活動部から「当番・係・班活動」の活動方針が提案される。生徒には、班での活動の中で責任ある役割を持つよう「一人一役」になるよう指導している。「一人一役」をする目的として

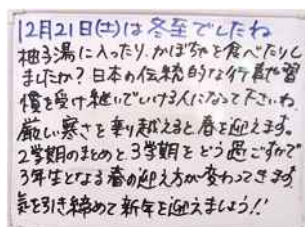


「責任感」、「協力・助け合い」、「認め合い尊重しあう」、「信頼感」、「自主性・積極性」の向上を目指している。そのために、学校全体として「認め合い尊重しあう」取組を補完するために、各学級の帰りの会では、1日の活動を通して仲間のために汗を流してくれた班員を発表しあったり、学級で1名選出したりする取組を行っている。その結果、集会での発表後などでは、自然に拍手がおきるなど生徒がお互いに励まし合う姿や集会後に優しい言葉かけをする姿も見られる。

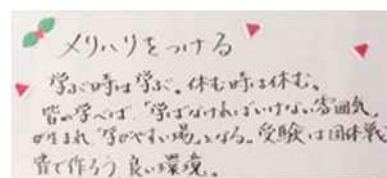
- ② 各学年の廊下には、毎朝学年主任から生徒に向けてメッセージが書かれ、教師からの気持ちが生徒に伝わるように工夫している。教師が「優しい言葉づかい」の手本となるよう取り組んでいる。



1学年主任



2学年主任



3学年主任



深谷市立藤沢中学校の取組

1 本校の概要

本校は深谷市の郊外に位置する花卉栽培が盛んな地域である。1つの小学校から1つの中学校に進学するため、生徒だけでなく、地域のつながりも大変強い。全校生徒数は261人、学級数は11の中規模校である。『想像力』と『協働力』そして、『創造力』へをキーワードに「自分の考えや想いを伝え合い、自尊感情を育む藤中教育」を推進している。特に①気持ちのよい挨拶・返事 ②母校を誇りに想う「全力校歌」③無言ひざつき清掃 ④靴をそろえる ⑤チャイムで開始を『五つの基(もとい)』として定め、生徒会、委員会、学級委員長による生徒の自発的な呼びかけと定期的な評価(褒める場面)を実施している。



その成果として生徒は大変落ち着いた生活を送っており、授業態度が良好なだけでなく、部活動などにも積極的に取り組んでいる。

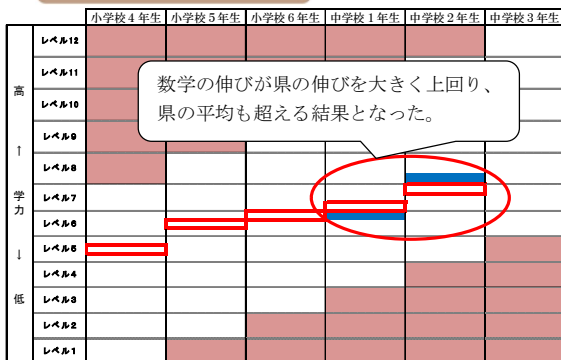
また小中の連携も密に行い、生徒はもちろん教師同士の連携も充実している。

2 令和5・6年度の結果

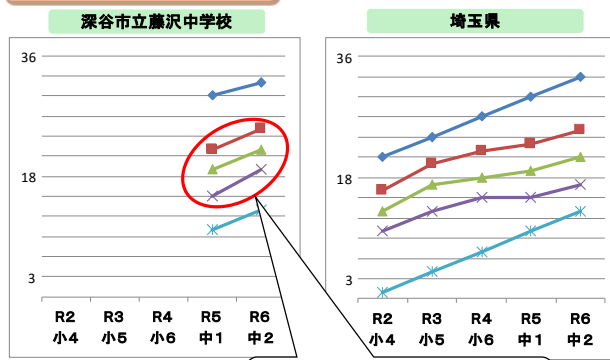
中学校1年生→中学校2年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



全ての層で伸びが見られるが特に、中間層の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 問題演習の帯活動化

数学の授業開始時に毎時間5問程度の問題を解かせ、簡単な解説を行う時間を設けた。問題の内容は既習内容とし、前時の復習の場合もあれば、それ以前の問題とすることもあった。解説については、タブレットを利用してスクリーン上で教師主導で行ったり、数学班を利用して班員同士の教え合いで解決したりするよう促した。

イ 数学班の常態化

授業開始時から終了時まで常に3、4人のグループにして授業を行っている。その中で、個別解決の時間を確保したり、困ったときにはすぐに班員に助けを求めたり、班員の意見を聞けるようにしたりしている。そうすることで、授業中に何をしているかわからない生徒は少なくなっているものと考えられる。

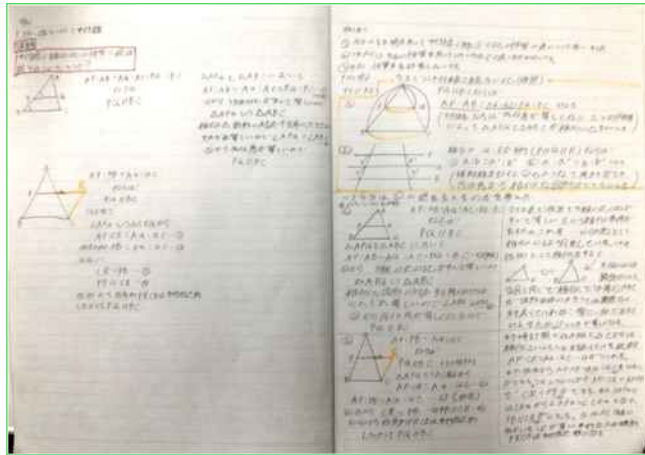


数学班

ウ 前時とのつながりを意識した授業展開の工夫と振り返り・復習の工夫

生徒に毎授業後に3つの視点【①今日の授業で学習したこと②これからの学習につなげられること③次の授業に向けての思いや目標】に沿って振り返りを行わせる。この振り返りの内、特に②を大切に、既習事項が「どんなことにつながりそうか」を生徒に考えさせることで、条件替えを行う意識や、問題を見出す意識を持たせることができたと考える。

また右の写真は生徒のノートの一例である。左のページは授業で使った部分、右のページは授業で扱った内容を自分なりの方法で復習したり、授業中の疑問を自分で証明したりしている部分である。このように授業の復習に毎時間取り組むことでアウトプットの量を増やし、学習の定着を図っている。



生徒のノートの一例

エ 主体的・対話的で深い学びの実施

R5年度からR6年度にかけて、主体的・対話的で深い学びの実施について、県や市では伸びがない中、本校2年生については0.1ポイントではあるが、伸びが見られた。上でも述べたように、グループでの協働学習が定着しているため、学力中・低位層の生徒でも、仲間の説明を参考にして、自分の言葉で、証明や説明を述べることができる機会が多くある。自分の言葉で説明が「できた」ことで「わかった」が実感でき、主体的に学びに向かっていると考える。

オ 他者の考えを説明する活動の実施

生徒は発表する際、タブレット端末を利用し、教室前面のスクリーンに投影しながら説明することが多い。その際、発表する生徒とは全く別の班の生徒がスクリーンの図や式等を指示棒で指し示す活動を行っている。自身の説明ではない説明を聞きながら、説明に合わせて指示棒を動かすことで、他者の説明を理解しようとする態度が育ったものと考えられる。

学校全体での取組

(1) 意図的な褒める機会の設定

席替えを行う際に、班員全員から個人へ一緒に班活動をしていて見えた「よいところ」を伝え合う活動を行った。仲間からよかったところを認められることで、授業内でも班活動などの学び合いの際に、積極的に他者と関わる姿が見られるようになった。

(2) フラワープロジェクトの実施

先に述べた「藤沢中学校五つの基」を達成するために、生徒会本部が「フラワープロジェクト」キャンペーンを行っている。当たり前のことを当たり前に行えるようにして、自分も仲間も大切にしている気持ち「好上心」を高める活動により、学校生活を大変落ち着いて、過ごせている。その結果何事にも前向きに取り組もうとする気持ちが高まっている。

藤沢中学校五つの基





越谷市立大袋中学校の取組

1 本校の概要

本校は、特別支援学級3クラスを含む計16クラス、全校生徒477名の中規模の学校である。学校教育目標を「創造」「信頼」「健康」とし、目指す生徒像を「自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる生徒」としている。それを具現化するための合言葉として、「チャレンジ！～創造力を生かして～」と定め、受動的でなく、失敗を恐れずに挑戦すること、また、自分らしい発想ややり方を工夫しながら学び、行動することで目標の達成を目指している。



2 令和5・6年度の結果

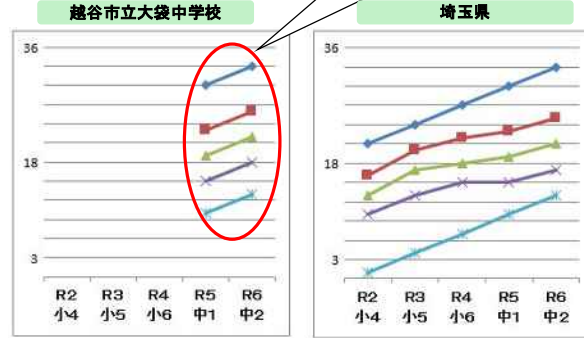
中学校1年生→中学校2年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア よさを称え、自己肯定感を高める掲示物

小テストや課題等の満点者や合格者を廊下に貼り出し、称えるようにしたところ、次への意欲につながる生徒が増えていった。また、上手にまとめられているノートや振り返りを掲示したところ、「書く」ことへの意識が高まり、自己評価シートへの記述も充実してきている。これらは現在も継続して取り組んでおり、一定の成果が見られている。なお、各教科で取り組んでいる。



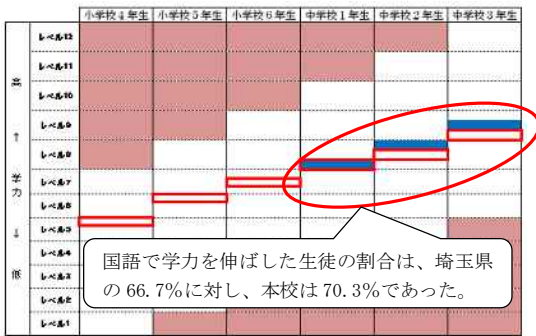
イ 学習方略や非認知能力に関すること

生徒は中学校生活への慣れと自我の芽生えから、学習や生活に対して自分なりの在り方を模索している時期であるが、「決められた課題を提出する」「やるべきことをやる」ということに関しては一貫して指導しており、「勤勉性」は上がっている。理解が不足していたり、取り組み方が緩やかだったりする生徒には、学習の進み具合を生徒・保護者と確認し、課題の分量を減らしたり補習をしたりするなど、スモールステップで対応している。常日頃から卒業後を視野に入れた声かけを行い、目標や計画の「必要性」や、「計画的に実行する」ことの大切さを指導している。

中学校 2 年生→中学校 3 年生の取組【国語】

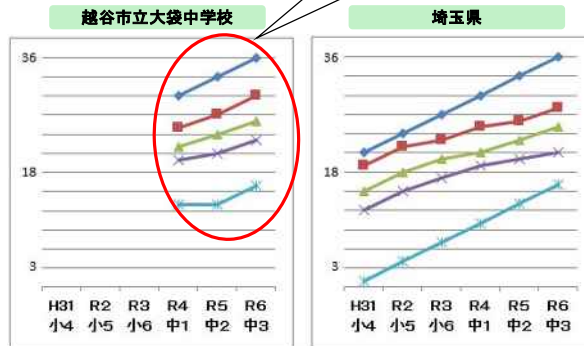
(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況

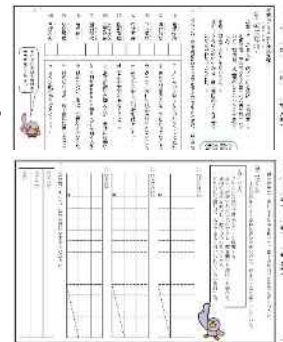
全ての層で同じような伸びが見られる。



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア コバトン問題集の活用と「書く」指導

毎回の授業の際に、短時間で取り組めるコバトン問題集を活用している。継続して活用することで基礎的な事項の定着率が上がっている。また、漢字の学習や長文を音読する学習、暗唱なども取り入れることで読解力を補完したり、語彙力を増やしたりする学習も行っている。さらに、定期的に作文も書かせており、書くことに慣れ、まとめたり表現したりする力も向上している。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

特に柔軟な方略、プランニング方略、作業方略、認知的方略が上がっており、1年生後半から2年生全体にかけて自分に合った学習の仕方、計画の立案、学習の準備等、生徒に考えさせ、試行錯誤させながら取り組ませてきたことで、自分なりの学習スタイルができつつある。国語以外でも各教科や行事等で同じように考えさせ、取り組ませている。本校は、教師同士のチームワークがよく、生徒の情報も些細なことまで共有できている。このことが生徒への働きかけにも生きており、多くの教師に分かってもらえているという生徒の安心感につながっている。また、教師同士のチームワークのよさは生徒の目にも映っており、学年や学校が自然と温かい環境となっている。このことも、日常生活を通して非認知能力を高めていく上での一助となっている。

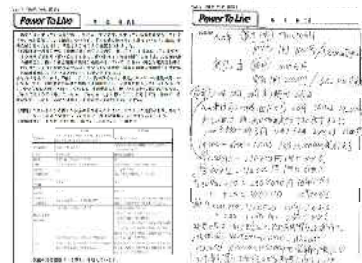
学校全体での取組

(1) 学力の伸びが小さい生徒に対して

教科によって補習を行ったり、個別に補習課題を課したりして、基礎基本の定着と自信に結びつけられるようにしている。

(2) 教科等横断的複合的問題への取組 (右図)

各教科等の見方・考え方を働かせながら最適解を導き出す問題を教師が作問し、定期的に取り組ませている。教科の問題に取り組む姿とは違う姿も見られている。



第5章

その他

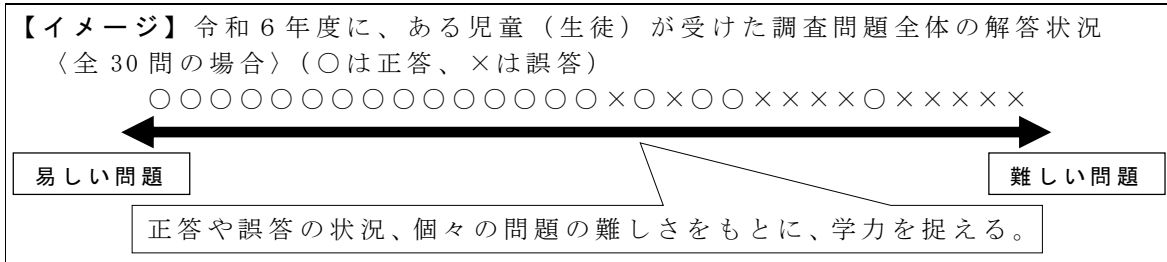
経年変化（学力の伸び）を測る埼玉県学力・学習状況調査の設計やよくあるQ & Aを掲載します。

また、授業改善に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用を図る校内研修資料も紹介します。

1 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(ア) 本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。



① 学力の捉えについて

上の図のように、調査問題全体の中で難しい問題に正答し、易しい問題に誤答することもあるなど、児童生徒によって正答、誤答のパターンは様々である。そこで、どのような学力であれば、どのような解答パターンとなりやすいかということを、統計的手法を用いて推定し、その結果を学力として捉えている。

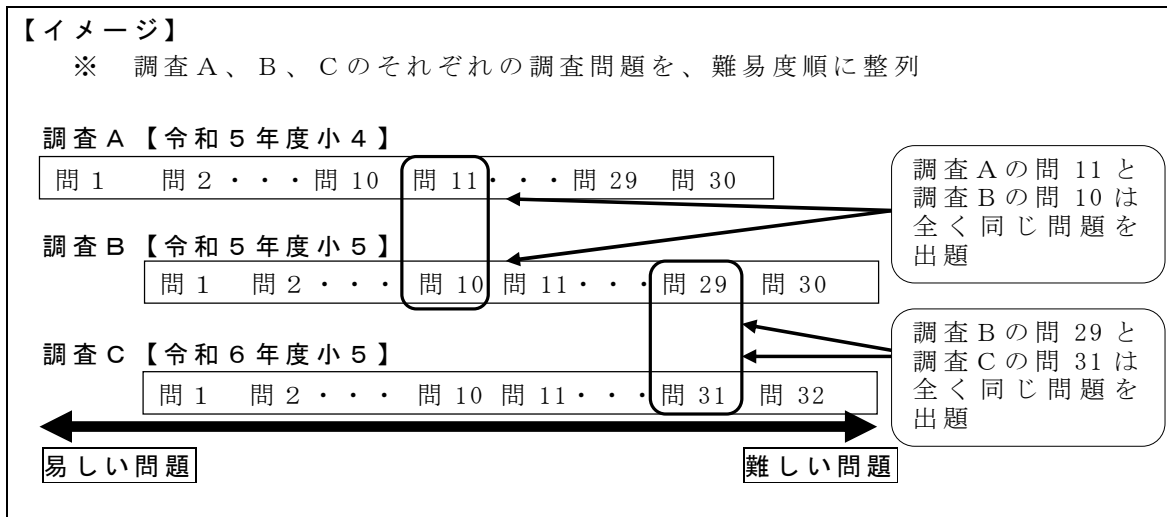
② 「問題の難しさ」で学力を捉える理由

全国学力・学習状況調査など、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えている。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできるが、小学校4年生と5年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなる。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、次の(イ)に述べる工夫をし、異なる調査の問題の難しさを比較可能にした上で学力を捉える。

(イ) 年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

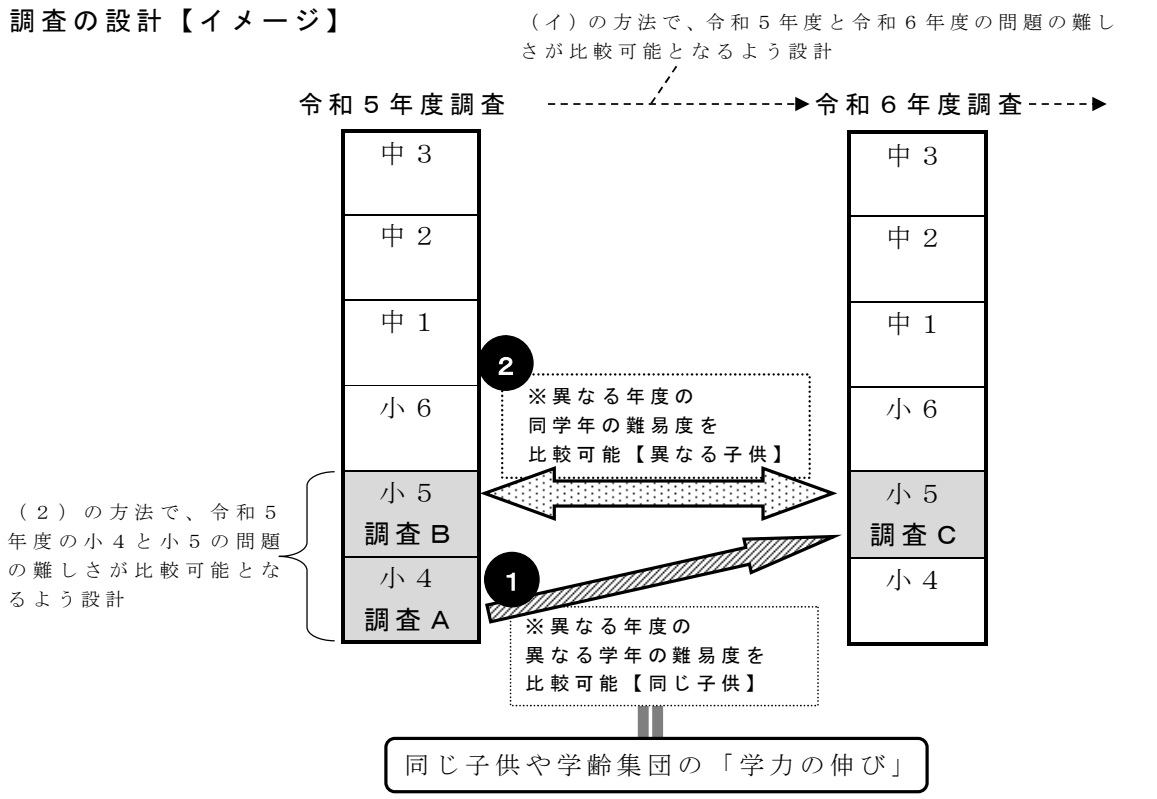
それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較する。



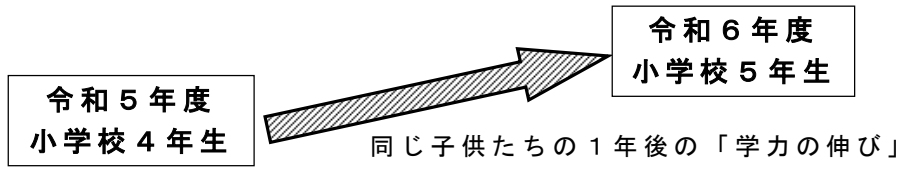
(ウ) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

(ア)、(イ)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

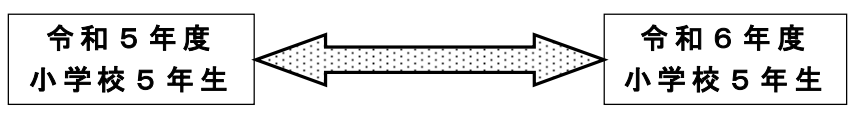
調査の設計【イメージ】



1 【同じ子供たちの「学力の伸び」】
 (例) 令和5年度の小4と令和6年度の小5



2 【異なる年度の同じ学年の子供たちの結果】
 (例) 令和5年度の小5と令和6年度の小5



(エ) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

① 「難易度」について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、調査結果を分析し、全ての問題に難易度を設定している。

< 難易度の例 >

○例1 計算問題 (割り算)

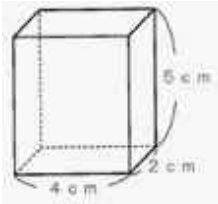
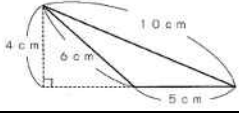
問題例	問題の難易度
$52 \div 4$	3
$5.6 \div 1.4$	4
$0.7 \div \frac{2}{3}$	6

整数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「3」となる。

小数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

小数と分数の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

○例2 求積の問題

問題例	問題の難易度
<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ2 cm、4 cm、5 cmの直方体の体積を求めましょう。</p> 	4
<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p> 	6

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

与えられた数値から必要な数値を取捨選択する問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

② 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断している。

学力は、「学力のレベル」で表される。学力のレベルはレベル1からレベル12までであるが、各学年の測定は以下の表のように7レベルの間で行っている。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～7	中学校1年生	レベル4～10
小学校5年生	レベル2～8	中学校2年生	レベル5～11
小学校6年生	レベル3～9	中学校3年生	レベル6～12

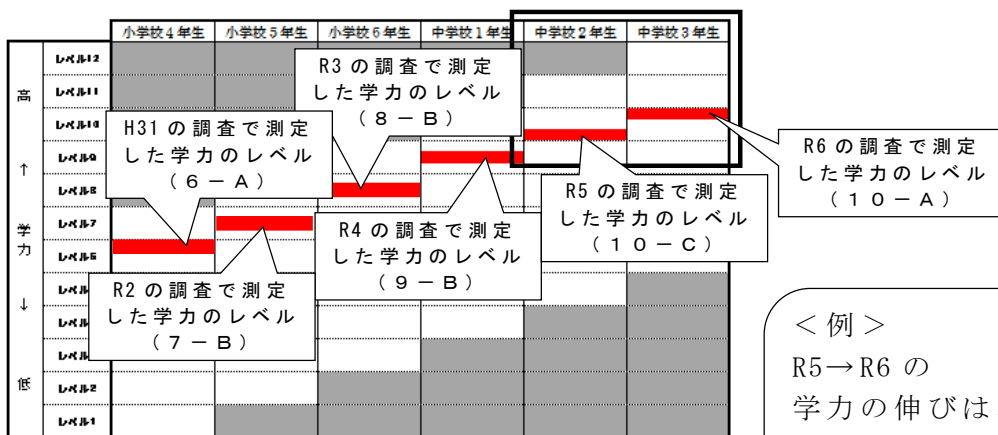
また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっている。児童生徒には、学力のレベルはこの小さな層で分けた1-Cから12-Aまでの36段階で提示される。

③ 「学力の伸び」について

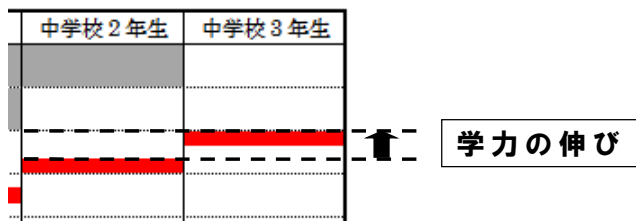
本調査では、年度間の学力のレベルの差を「学力の伸び」と捉えている。下図は、個人結果票の一部を拡大したものである。児童生徒には、学力のレベルがバーの位置で示される。前年度のバーの位置と、今年度のバーの位置を比べると「学力の伸び」が分かる。

「学力の伸び」は学力のレベルを36段階に分けた中でのレベルの差で測っている。

< 学力のレベルの示し方の例（個人結果票の一部） >



< 個人結果票・ 部分を拡大したもの >



2 調査に関するQ & A

(ア) 調査について

【Q 1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A 1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくい課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、異なる学年や年度間の問題の難易度を調整して学力を測定することにより、小学校4年生から、中学校3年生まで、児童生徒たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっています。

【Q 2】

県学力・学習状況調査の調査問題は、原則として非公開とされていますが、なぜですか。

【A 2】

経年での伸びを測るために、同一の問題を年度を越えて出題する必要があることから、問題を原則非公開としています。

県学力・学習状況調査は、OECDの生徒の学習到達度調査(PISA)や、TOEIC、TOEFLなどと同様の分析手法を使っており、こうしたテストでも問題は原則非公開となっています。

なお、県学力・学習状況調査の類似問題等を基に作成した「復習シート」を県教育委員会ホームページに掲載しています。このシートは、家庭や学校で「学習した内容がしっかり身に付いているのか」の確認や、「一人一人の学力をさらに伸ばす」ことに活用できます。

(参考・県教育委員会ホームページ)

県学力・学習状況調査の「復習シート」について

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuu-si-to2.html>

(イ) 個人結果票の見方について

【Q3】

例えば、学力のレベル7で考えた場合、小学校4年生の学力のレベル7の児童と、中学1年生の学力のレベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A3】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力のレベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力のレベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかというと、解けない問題もあります。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q4】

前年度からレベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベルの数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A4】

本調査では、どの学力のレベルの中でも、数値が伸びているのであれば、児童生徒一人一人に伸びを実感させ、自信をもたせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して、難易度が1レベルでも高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q5】

例えば、中学校2年生での学力のレベルが5（中学校2年生の中では一番低い学力のレベル）の場合、学力のレベルが5より下のレベルがつけられない状態になっています。学力のレベルが5より下の場合は、どのように記載されますか。

【A5】

中学校2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲は、レベル5からレベル11と設定しています。たとえ、問題に1問しか正解しなかったとしても、中学校2年生ではレベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体が記載されないこととしています。

(ウ) 個人結果票の返却について

【Q6】

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A6】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。一人一人の児童生徒に対して、学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと考えています。

①「今までの学力の変化」を確認し、学力が伸びた児童生徒に対しては、④「学習に関するアドバイス」を参考にしながら、1年間の頑張りを認めたり、ほめたりすることで、自信をもたせてください。また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、②「教科の領域別正答率」の数値や、③「県平均と比べて時間をかけた問題」を参考にしてください。これにより、児童生徒が解答に困った、迷ったと考えられる問題を抽出し、その類似問題の復習を促すことができます。また、「領域別のかけた時間」では児童生徒が時間をかけた領域を把握することができるため、個々の課題を可視化することができます。調査問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」(類似問題)を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、保護者も同席している場合には、可能な限り時間をかけていただき、児童生徒の「学力の伸び」やよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習を充実するよう伝えるようにしてください。

①今までの
学力の変化

②教科の領域別正答率

③県平均と比べて
時間をかけた問題

④学習に関するアドバイス

(エ) 結果帳票について

【Q7】

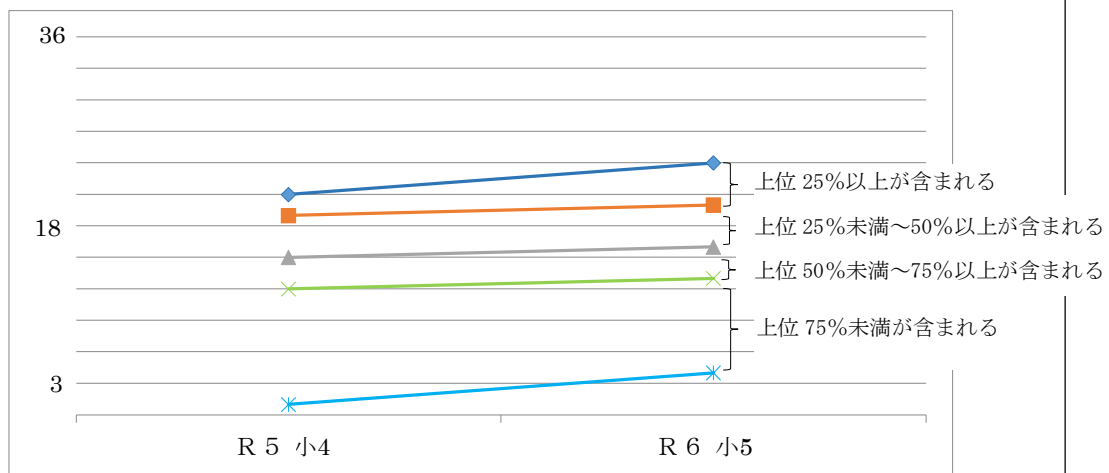
帳票の「28_各実施主体の調査結果票」の見方についてです。
線の傾きは何を表していますか。

【A7】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。5つの点は個人を表すので、集団の変化として捉えるためには、点どうしの幅に着目することが大切です。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】



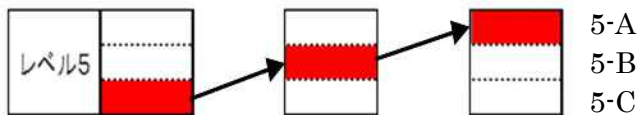
- ◆⇒ 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力のレベル）
- ⇒ 75%値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ▲⇒ 中央値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ✕⇒ 25%値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ✧⇒ 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力のレベル）

グラフの縦軸は、学力のレベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力のレベル（12段階）を表しています。

各レベルの間は、A，B，Cの3段階に分かれています。

よって、全体では36段階（12×3）になります。



3 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

(1) 概要

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査は、県の事業により、一部の学校で取り入れている取組で、教員と児童生徒が授業の振り返りを行うための質問調査です。概要についてお伝えします。

まずは1か月程度の授業実践をした後に、教員と児童生徒がそれぞれ質問調査を行います。

そして質問調査の結果をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の視点から見つけた授業の良さを共有したり、改善したりする点、その改善方法を検討します。

その後、共有・検討したことを基に授業改善に取り組み、一定期間の授業実践の後に再度質問調査を行うことで授業改善の進捗を可視化することができます。



(2) 質問調査項目

質問項目は、「主体的・対話的で深い学び」の視点によるもので、資料左側の教員用の質問と資料右側の児童生徒用の質問が対応しています。

教員用質問調査		児童生徒用質問調査		
1	子供の姿態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと	1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	主に 主体的な 学び
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと	2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと	4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	主に 対話的な 学び
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと	5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと	6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと	7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	主に 深い学び
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと	8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと	9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること			

(3) 調査資料（研修用資料サイト掲載）

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査に活用するデータは、使用方法の説明 PDF 資料とともに県立総合教育センターの HP 内にある、義務教育指導課研修用資料サイトにアップロードされています。

ID やパスワード不要でダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

義務教育指導課 研修用資料サイト
https://ecsweb.center.spec.ed.jp/gimushi/page_20240411093409



(4) 参考資料

活用事例① 教員も児童生徒も高い数値の項目 → 校内等で共有を！

教員用質問項目	児童生徒用質問項目
2 授業の終わりに、子どもが振り返る様子を撮影したこと	4.4 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分のわかったこと・わからなかったことを書き出したこと

こんな工夫をしています。

活用事例② 教員と児童生徒の振り返りに差がある項目 → ねらいがうまく伝わっていないかも…

教員用質問項目	児童生徒用質問項目
5 わからなかったことを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	2.5 わからなかったことを質問しやすいため積極的に授業が行われたこと

質問項目 2

主体的な学びに関する質問調査項目です。こちらは教員 5、児童生徒 4.4 と高い数値となっています。

先生が振り返りの場を工夫し、継続的に設定したことが児童生徒にとって効果的だったということが分かります。

質問項目 3

主体的な学びに関する質問調査項目です。教員は 5、児童生徒の集計結果は 2.5 と回答に幅があります。

回答に差がある場合は、先生方お気づきのとおり、残念ながら先生のねらいが児童生徒に届いていないということがわかり、指導方法や教材などの工夫改善が必要となります。

活用事例③ 教員も児童生徒も低い数値の項目 → 授業改善のチャンス！

教員用質問項目	児童生徒用質問項目
1 対話的な学びで、多様な情報や考えを共有できたり、自分にはない新たな考えや気づきがあったりすること	1.3 話し合いや協働の授業から、自分の考えが深まったこと、授業の楽しさを感じたこと

そういえば、やってないかも…

活用事例④ 児童生徒間での差がある項目 → 個々の状況に着目

児童生徒用質問項目	児童生徒用質問項目
4 課題の振り返りに関して、話し合いや発表し合いや書き出し、手帳なども活用し振り返りやすいように工夫したこと	3.8 課題の振り返りに関して、話し合いや発表し合いや書き出し、手帳なども活用し振り返りやすいになったこと

一人一人に着目すると…

Aさんは、確かに話し合い活動をしたあとの表情がよいかも。

Dさんは、話し合い活動がうまく機能しなかったのかな…。ペアを工夫してみようかな。

質問項目 6

対話的な学びに関する質問調査項目です。教員の回答が 1、児童の回答が平均 1.3 でした。この場合は、まずは、教員が授業の展開の中で「対話的な学び」を意識する必要があります。各教科の資質能力を育成するために適切な場面で、対話的な学びを取り入れるようにしましょう。

質問項目 5

対話的な学びに関する調査です。児童生徒の集計結果は 3.8 と高い数値に見えますが、A の児童生徒のように 5 と回答した子もいれば、D の児童生徒のように 1 と回答した子もいるという事が同じ教室の中でも起こり得ます。児童生徒の個々の回答結果を確認することによって、児童生徒一人一人の学習における困り感や目に見えない声を聴くことができます。

研修用資料サイトに掲載されている資料

児童生徒用・教師用質問紙 (word 形式)

児童生徒用質問紙	教師用質問紙
1 対話的な学びで、多様な情報や考えを共有できたり、自分にはない新たな考えや気づきがあったりすること	1 対話的な学びで、多様な情報や考えを共有できたり、自分にはない新たな考えや気づきがあったりすること
2 わからなかったことを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	2 わからなかったことを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと
3 話し合いや協働の授業から、自分の考えが深まったこと、授業の楽しさを感じたこと	3 話し合いや協働の授業から、自分の考えが深まったこと、授業の楽しさを感じたこと
4 課題の振り返りに関して、話し合いや発表し合いや書き出し、手帳なども活用し振り返りやすいように工夫したこと	4 課題の振り返りに関して、話し合いや発表し合いや書き出し、手帳なども活用し振り返りやすいように工夫したこと
5 わからなかったことを質問しやすいため積極的に授業が行われたこと	5 わからなかったことを質問しやすいため積極的に授業が行われたこと

質問紙集計表 (excel 形式)

項目	教員	児童	平均
1	1.0	1.3	1.15
2	5.0	2.5	3.75
3	1.0	1.3	1.15
4	4.0	3.8	3.9
5	2.5	2.5	2.5

行を増やして
3回目・4回目
も実施可能

振り返りを記入
して改善を
確かめる



アンケート機能のあるアプリを使えばすぐに集計できそう！

同じフォーマットで実施すれば他校との合同研修もできそう！



アップで実感 アップでスマイル

埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>



埼玉県マスコット「コバトン」